ボーリング柱状図

調　査　名 [redacted]

事業・工事名 [redacted]

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H24-D1-2	調査位置	X:277.490 , Y:897.401			北　緯	35° 45' 12.77"
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013 年 3 月 16 日～ 2013 年 4 月 4 日	東　経	136° 1' 4.38"
調査業者名	[redacted]	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角度	180° 上 90° 下 0° 30.0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西 53.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	
総掘削長	33.00 m					試錐機		ハンマー落下用具	
						エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
1				盛土	黒						0.00～6.81m：盛土 0.00～0.31m：礫 最大径30mmの黒色の細粒砂岩，泥岩片からなる。	(100)															
2					黄褐						0.31～2.84m：砂礫 最大径30×60mmの角礫であるが，径10mm以下の細礫～粗砂を主体とする。粒度は不均質であるが，細粒分は極少量であり，ルーズである。礫は花崗斑岩，アプライト主体であるが，まれに黒色泥岩を含む。	(100)															
3												(100)															
4					明黄褐						2.84～6.81m：シルト質砂礫 最大径160mmの花崗斑岩礫が主体で，アプライト礫も見られる。シルト分を含み，上位層よりやや締まりが良い。 3.30～3.45m：泥岩礫が混じる。 3.82m：径40mmのモルタル片を含む。	(100)															
					にぶい黄						4.35m：径50mmの炭質物片を含む。	(100)														

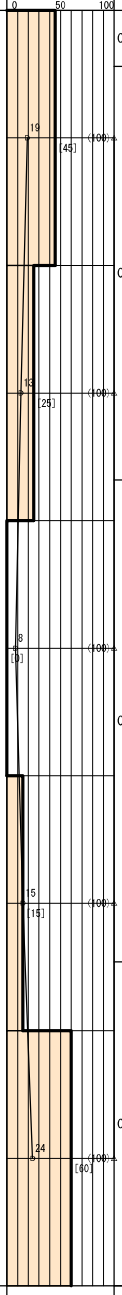
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入) 試験 (N)値	(N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
6				盛土	にぶい黄							(100) (100)																
	1.05	6.81																										
7				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg Ⅳg	cg	δ	2	6.81～33.00m 花崗斑岩 斑晶は径2～10mmの石英と長石からなる。深度10.58m以浅の長石は白濁化している。21.12m以深は所々，アプライトに近い岩相を呈する。 6.81～10.58m：傾斜40～60°の割れ目と低密着割れ目が主体で，一部で，これらに斜交～直交する40～60°割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や，軟質な白色粘土を挟むものもある。 7.10m，8.11m：傾斜45～60°で幅0.5～2mmの白色軟質粘土脈を挟む。	3 [0] 5 [0]	CL'															
8							Vg Ⅳg Vg				8.56m：傾斜55°の割れ目沿いに幅2～3mmが淡緑色化し，微細な白雲母が晶出する。	7 [0] (100)																
9							Ⅳg Vg Ⅳg				8.89m：傾斜55°の割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。上端側にはマンガン鉱染で黒色化した幅2mmの砂を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 9.06m：傾斜52°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断するカリ長石は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟在は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 9.54～9.61m：傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。 9.77m：傾斜50°の割れ目に酸化汚染が見られる。	7 [0] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
11				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	10.21m：傾斜45°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断する石英斑晶は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟在は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 10.58～11.53m：傾斜50～55°の割れ目が10～30mm間隔でほぼ平行に分布する。10.58～10.92mは風化で褐色化が強いが，劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目密集部である。一部，割れ目が石英斑晶を横断しているが，石英にズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	8 [0] (100)	CL'													
							Ⅴg					4 [0] (100)														
						Eg	Ⅵg	dg		3	11.53～11.67m：全体が粘土化し，著しく軟質化するが，せん断面は分布しない。															
						Dg	Ⅴg	cg		2	11.67～11.95m：傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し，径20～30mmに岩片化する。															
12						Eg	Ⅵg	dg		3	11.95～12.13m：割れ目沿いに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くなり，全体に軟質化が著しい。		D'													
					にぶい褐		Ⅴg	cg			●12.38～12.97m：破砕部（D-1断層） 12.38～12.86m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端60°，下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し，著しく軟質化した径10～30mmの岩片からなる。岩片間に20～70°で幅0.5～1mmの軟質な灰白～灰黄色粘土脈が分布する。全体ににぶい褐色を呈する。	3 [0] (100)														
13					にぶい橙						12.86～12.87m：粘土状部（Hc-1） 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白～灰黄色を呈する。幅5mm。 12.87～12.97m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端45°で直線的にシャープに，下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5～20mmの岩片主体で，岩片間に幅0.5～1mmの粘土脈を少量挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm。	9 [0] (100)														
14						Dg	Ⅳg			2	12.97～16.24m：上位に比べ割れ目は少ない。割れ目沿いに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土脈の分布は少ない。傾斜40～60°の割れ目が主体である。 13.15～13.46m：傾斜10～20°の割れ目が多く，割れ目沿いは風化で砂状化～小岩片化し，一部でマンガン鉱染を受ける。 13.73～13.77m：傾斜55～65°の割れ目が2～10mm間隔で平行に直線的にシャープに分布する。粘土化はないが，全体に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。 13.82～13.89m：不規則な形状で褐色化する。 14.20m：傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密著して連続する。 14.32m：傾斜45°の割れ目沿いに幅5～10mmが緑色化するが，粘土化などの劣化は伴わない。 14.87m・60°の割れ目は交差する80°の割れ目を止めており，14.97m・62°の割れ目は長石斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	10 [10] (100)	CL'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
16				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	15.10m・65°の割れ目は長石斑晶を横断し，15.28m・55°の割れ目は石英斑晶を横断する。両者ともズレは認められない。また，これらの割れ目を横断する割れ目が見られる。両者とも挟在物は認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 15.47m以深では，割れ目沿いに幅1～2mmで風化により褐色化する。 16.12m：傾斜60°の割れ目沿いに微小な金属鉱物が晶出する。	7 [0] (100)	CL'													
17						Eg	Vg			3	16.24～17.66m：コア全体が著しく軟質化するが，17.46m以浅では原岩組織と割れ目は残留する。割れ目の一部は，マンガン鉱染を受け，黒褐色化する。 16.54m：傾斜50°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。割れ目に挟在物は見られないが，幅1mm程度が風化で褐色に砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 17.05～17.30m：径5～10mmの大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	5 [0] (100)	D'													
18							Ⅵg	dg			17.46～17.66m：径10～20mm前後に細片化する。	12 [12] (100)														
19						Dg	Ⅳg	cg		2	17.66～19.78m：上位に比べて割れ目が少なくなり，傾斜30～60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり，粘土脈を挟むものがある。 18.10m：傾斜40°の割れ目に幅1～2mmのマンガンを挟む。 18.21m：傾斜58°の割れ目沿いに幅1～2mmが風化で褐色化し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出する。 18.41m：傾斜50°で幅1mmの白色粘土を挟む。 18.77m：傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土を挟む。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 18.97m：傾斜58°の割れ目沿いがマンガン鉱染で黒褐色化する。 19.01～19.21m：風化残留部でやや硬質である。 19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅2～15mmで砂状～細片状化する。若干の粘土も含む。この間，マンガン汚染により黒色化している。 19.57～19.61m：傾斜50°，幅2.5mm程度で軟質化する。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著に見られる。 ●19.78～19.87m：破砕部 粘土混じり礫状部（Hj） 上端53°，下端63°でともに直線的でシャープに連続する。径1～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄橙色を呈する。幅10～50mmと膨縮する。 19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。 19.87～20.59m：傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し，一部に幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	19 [19] (100)	CL'													
						Cg																					
						Dg	Vg					20 [20] (100)															
						Eg	Ⅵg	dg		4																	
						Dg	Vg Ⅳg	cg		2																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
21				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	20.59～21.50m：直上位と同様，傾斜60°の割れ目が分布するが，直上位よりもやや硬質である。 20.74～20.77m：傾斜30°で幅30mmの斑晶のない微晶質部が分布し，上下端は密着する。上端側には径10mmの大型のカリ長石の斑晶が分布する。 20.90m：傾斜65°の割れ目沿いに微細な白雲母が晶出する。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化する。 21.05～21.30m：傾斜80～90°のマンガン鉱染を伴う低密着割れ目が2～3本分布する。 21.12m以深は斑晶が少ないアプライト様を呈する。	25 [36] (100)														
						Cg	Ⅲg																				
							Ⅳg																				
							Ⅲg					1 [11] (100)	CL′														
							Ⅳg				21.50～23.18m：上位より割れ目がやや多くなるが，やや硬質である。割れ目は特定方向のものは分布しないが，一部は割れ目沿いに軟質化する。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。 21.50～21.55m：局所的に粘土化し，灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。上端の傾斜50°の割れ目には幅2～3mmの軟質な黄褐色粘土脈を挟む。															
22	-12.19	22.10				Eg	Ⅵg	dg		3																	
				アプライト		Vg	cg				21.89m・15°～22.10m・50°の割れ目で囲まれた部分は粘土化し，劣化する。 22.10～22.39m：アプライトを挟む。上端60°，下端20°で花崗斑岩との境界は明瞭である。														
	-12.44	22.39				Cg	Ⅳg	bg			22.17m：傾斜60°で幅1～2mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。 22.21m・50°及び22.89m・85°の割れ目は，交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	9 [0] (100)														
23				花崗斑岩		Dg	Vg		γ		22.32m：傾斜20°で幅20mmのカリ長石濃集部が母岩に密着して分布する。																
						Cg	Ⅳg																				
							Ⅲg			2	23.18～24.04m：やや硬質で，傾斜40～60°の割れ目が主体であるが，割れ目は少ない。一部に幅1～2mmの軟質な白～灰黄色粘土脈を挟む。	14 [34] (100)	CM′													
								cg			23.68m及び23.72m：傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。																
							Ⅳg				23.88m：傾斜73°で幅4～5mmのカリ長石と石英の濃集部が脈状に伴着して分布する。																
24						Dg	Vg				24.04～25.22m：上位よりやや軟質化し，割れ目の一部は細片化する。傾斜20～60°の割れ目が主体である。割れ目に白色粘土やマンガンを挟むことが多い。 24.04m：傾斜35°の割れ目沿いに幅5～10mmが緑色化する。															
							Ⅳg				24.57～24.60m：傾斜60°の割れ目沿いにマンガン汚染が顕著に見られる。	8 [0] (100)	CL′													
							Vg				24.80～24.82m：傾斜60°で幅15mmが白色粘土化し，やや軟質化する。下端側は緑色化が見られる。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
26				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	2	25.22～26.84m：一部の割れ目では，割れ目沿いに薄く軟質化するが，概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には，幅0.5～1mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	CL'													
27						Cg	Ⅲg				26.67m：傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。幅1mmの連続性に乏しい軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 26.84～28.73m：互いに交差する傾斜40～60°の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多い。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質～やや軟質である。 27.30～27.32m：上下端60°の割れ目に幅0.5～1mmの軟質な淡黄色粘土を挟み，全体に粘土化が進む。	CM'													
28						Dg	Vg					CL'													
29						Cg	Ⅳg	bg																	
							Vg	cg			28.42～28.46m：上端65°，下端55°の割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴い，幅5mm前後の淡緑色化が見られる。割れ目沿いに白雲母が晶出する。 28.73～30.20m：やや硬質で，傾斜40～60°の割れ目が主体であるが，割れ目は少ない。風化は弱く，割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で，砂状部は29.05mの傾斜60°の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。													
							Ⅳg																		
							Vg																		
							Ⅲg																		
							Ⅳg																		
							Ⅲg	bg			29.32～29.33m：傾斜30°，幅10～12mmで径2～5mmのカリ長石，石英が脈状に分布する。 29.45m：傾斜55°と60°の割れ目沿いはマンガン鉱染で径2～3mm程度の斑点状に黒色化する。	CM'													



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
31				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅲg	bg	γ	2	30.20～31.44m：上位と同じ硬さで，割れ目は多くなる。互いに交差する傾斜30～60°の割れ目が分布する。粘土化部は分布せず，粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	18 [32] (100)	CM'														
							Ⅳg						CL'														
							Ⅲg				30.68～30.75m：上下端60°で幅2mmの軟質なにぶい黄橙色粘土を伴う割れ目に囲まれた区間は，割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟む。上端は緑色化する。																
							Ⅳg						CM'														
							Ⅲg				31.41～31.44m：軟質化し，マンガン鉱染も受けるが，粘土化・粘土脈等は分布せず，劣化は認められない。 ●31.44～31.46m：破砕部 粘土状部（Hc-1） 傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒を含む。軟質。灰白～にぶい黄橙～灰赤色を呈する。幅10～12mm。	16 [16] (100)															
32						Dg	Vg	cg		3	31.46～33.00m：割れ目が多くなり，傾斜30～60°の低密着割れ目が1～3cm程度の間隔で分布する。低密着割れ目の一部には幅0.5～2mmの軟質な白～灰赤色粘土脈を伴う。 31.70～31.80m：傾斜30°で幅10mm程度のマンガン鉱染による黒褐色縞状部が分布する。 32.05～32.11m：マンガン汚染が顕著に見られる。	8 [0] (100)	CL'														
	-21.63	33.00																									

[redacted]

孔番　D1-2 孔　　深度　0.00m ～18.00m

孔口標高　6.95m

[redacted]

[redacted]

孔番　D1-2 孔　　深度　18.00m ～ 33.00m

孔口標高　6.95m

[redacted]

余白

H24－D1－4

余白

ボーリング柱状図

調査名 [redacted]

事業・工事名 [redacted]

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H24-D1-4	調査位置	X:277.640 , Y:897.400			北緯	35° 45' 12.77"
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013 年 5月13日～ 2013 年 6月10日	東経	136° 1' 4.38"
調査業者名	[redacted]	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角度	180° 上 90° 0° 下 45.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 53.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	70.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入試験 N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				盛土	黒褐						0.00～7.62m：盛土 0.00～0.32m：礫 径5～30mmの黒色砂岩からなる。																
											0.32～2.94m：礫混じり粗砂 径3～40mmの花崗斑岩，アプライトの亜角～亜円礫を含むルーズな粗砂からなり，径3～10mmの砂岩を多く含む。	(100)														
1																											
					にぶい褐							(100)															
2																											
												(100)															
3											2.94～5.60m：砂礫 径5～130mmの花崗斑岩，アプライトの亜角～亜円礫で，硬質なものが主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中～粗砂でやや締まる。礫率は40～50%であるが，5.15m以深では径10mm前後の礫が主体である。	(100)															
4					明黄褐							(100)															
					にぶい黄橙						4.96～5.12m：径10～60mmのコンクリート片を含む。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
6				盛土	にぶい黄橙						5.60～7.62m：礫混じり粗砂 上位に比べて礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5～10mmの花崗斑岩の半クサリ礫が主体で，一部クサリ礫を含む。 6.00～6.45m：径10mm前後の硬質な礫が主体となり，礫量が多い。礫率は50%程度で上下に比べて締っている。 6.36～6.42m：明赤灰色の軟質な粘土が不規則な形で分布する。浅部ないし深部側への連続性はない。	(100)														
7											7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。 7.40m以深は礫量が少ないルーズな花崗岩質の粗砂からなる。	(100)														
	1.56	7.62									7.62～17.89m：花崗斑岩 径2～10mmの石英，長石の斑晶を5～15%程度含む。 7.62～9.26m：原岩組織と割れ目は残留し，変質粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜30～60°の割れ目が主体で，一部で傾斜60～80°の割れ目が交差する。風化により割れ目沿いに数mm程度砂状～小細片化する。	6 [0]														
8				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Ⅳg	cg	δ	2		7 [0] (100)	CL'														
9					明黄褐	Eg	Ⅵg	dg		3	8.78m・60°，8.91m・65°の割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土が断続的に付着する。 9.05～9.20m：褐色化が顕著に見られる。 9.17～9.20m：傾斜50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化するが，砂状～粘土状などの劣化はない。 9.21～9.43m：緑色変質が顕著である。															
					明褐灰	Dg	Ⅴg	cg		2	9.26～9.38m：全体に風化と変質で軟質化が著しい。9.26～9.32mと9.36～9.38mでは，粘土混じり岩片状を呈し，径5～10mmの緑灰色化した岩片主体で，岩片間には幅1mm程度の軟質なにぶい褐（上端側）～灰白色（下端側）の粘土脈が分布する。9.32～9.34mでは，傾斜45°で幅30mm程度が更に粘土化した礫質粘土で，径3～10mmの緑灰色化した粘土化岩片を多く含む。 9.34～9.36m：上端45°，下端50°で直線的に連続する幅5～15mmの軟質なにぶい赤褐色を呈する粘土脈を挟む。 9.38～10.76m：全体にやや軟質で，一部は風化により著しく軟質化する。一部で消滅しかかっているが，大半の割れ目は残留し，傾斜30～70°の割れ目が主体で，一部でこれらに斜交～直交する20～40°の割れ目も分布する。後者の割れ目は前者の割れ目で止まっていることが多い。10.00m以深では，前者の割れ目に幅1～2mmの軟質な灰白～淡黄色粘土を挟み，一部にはマンガンを伴う。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 9.43～9.50m：褐色化が顕著に見られる。	3 [0] (100)														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入) 試験 (N)値	(N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
11				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2	10.76～10.88m：上端35°で直線的にシャープに，下端30°で波打って連続。傾斜20～25°の割れ目の一部に幅0.5～1mmの軟質～一部硬質な灰黄色粘土脈を挟み粘土混じり岩片状を呈する。にぶい橙色を呈する。幅110mm。 10.88～10.91m：上端30°，下端35°でともに連続的でシャープに連続する。径5～10mmの風化して軟質化～粘土化した岩片を含む粘土質礫状部である。下端側の幅5mmは珪化で硬質化し，マンガン鉱染により一部は黒褐色化する。全体ではにぶい橙～黒褐色を呈する。幅20～30mm。 ●10.91～10.93m：破砕部（D-1破砕帯） 礫混じり粘土状部（Hc-2） 上端35°，下端38°でともに直線的でシャープに連続する。径1～2mmの石英粒と粘土化した径3～5mmの岩片を若干含む。軟質。下端には石英粒，岩片を含まない軟質な幅1～2mmの灰白色粘土が連続する。全体は浅黄橙色を呈する。幅15～18mm。 10.93～11.22m：粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが，全体に軟質化する。 11.22～11.65m：傾斜50～70°の割れ目が主体で，これに斜交～直交する20～50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが，割れ目沿いに砂状化する。 11.65～17.89m：上位より割れ目が少なくなる。全体にやや軟質であるが，割れ目沿いの一部は風化でより軟質化する。 12.60m：傾斜45°で幅1～2mmの石英脈を挟み，境界は割れ目化する。割れ目とその周辺の幅10～20mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。 13.00～13.38m：風化で砂状化が進む部分が多い。 13.45～16.80m：径5～10mmの粘土化し白濁化した長石斑晶を多く含む。	3 [0] (100)	CL'															
												4 [0] (100)																
12						Eg	Vg	dg																				
							Ⅳg																					
							Vg																					
13						Dg	Ⅳg	cg				7 [0] (100)																
												6 [0] (100)																
14												7 [0] (100)																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
16				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2	15.27m以深は，割れ目は風化し褐色化するが，割れ目周辺の砂状化は認められない。粘土化部は分布せず，割れ目に挟在する粘土脈の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。 15.50m：傾斜55°で幅1～10mmと膨縮する軟質な灰黄色粘土脈を挟む。	8 [0] (100)															
							Ⅳg				16.00～17.10m：複数の傾斜75～85°で蛇曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。	6 [0] (100)															
17							Vg				17.03m・45°，17.82m・40°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 17.32m：傾斜60°で幅2mmの軟質～やや硬質な明灰オリーブ色の粘土脈を挟む。微細な白雲母を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。	7 [0] (100)	CL'														
	-5.70	17.89					Ⅳg				17.89～18.44m：黒雲母花崗岩 上端50°で幅3～4mmの石英脈と径2～5mmの緑泥石を伴って，平均径3～10mmの石英，長石，径1～3mmの黒雲母の斑晶からなり，等粒状組織をもつ黒雲母花崗岩である。長石は径10mmと大型化するものもある。下端境界は花崗斑岩に漸移する。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが，これ以外での粘土化はない。割れ目や原岩組織は残留するが，風化で著しく軟質化する。															
18				黒雲母花崗岩																								
	-6.09	18.44		花崗斑岩	にぶい橙	Cg			γ		18.44～70.00m：花崗斑岩 19.11～19.33m，28.43～30.40m付近，55.84～57.00m付近など斑晶の量が少なく，アプライト様を呈する部分を挟む。 18.44～21.00m：傾斜30～50°の割れ目が主体で，一部で60～70°の割れ目が交差する。一部に幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 18.90～19.75m：傾斜30～50°で幅1～5mmの石英脈が母岩に密着して複数分布する。脈周辺に粘土化は伴わない。 19.08m：傾斜50°で幅2～3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み，上端側幅約50mmはマンガン鉱染を受ける。	6 [0] (100)															
19							Vg																					
							Ⅳg					7 [0] (100)																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい橙		Ⅳg	cg	γ	2	20.60m：傾斜70°の割れ目沿いに風化して褐色化が進むが，砂状化などの劣化は伴わない。割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。	7 [0] (100)					0 10 20 30 40 50											
21						Cg	Ⅲg				21.00～21.66m：割れ目は少ないが，一部で傾斜60°前後の低密着割れ目を含み，打撃で分離し易い。 21.19m・35°，21.44m・50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。																	
											21.50m：傾斜60°の割れ目は，21.44m・50°の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	18 [36] (100)																
22											21.66～26.78m：傾斜30～50°の割れ目が主体で，割れ目沿いに薄く砂状化したり，幅1～3mmの軟質な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。																	
											22.36～22.40m：径15mmの大型の長石斑晶が2個見られる。	10 [10] (100)	CL'															
					明褐灰				δ		22.72m・45°～22.78m・50°の間は，風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。																	
23							Ⅳg				23.27m：傾斜50°で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 23.40～23.77m：傾斜60～70°の低密着割れ目が複数平行に分布し，一部で石英，長石斑晶を横断する。割れ目沿いに幅1～2mmで砂状化し，風化で褐色化する。	8 [0] (100)																
						Dg					23.76～24.00m：傾斜70～90°の湾曲した高角度割れ目に幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。																	
24											24.15～24.40m：径10～20mmの大型の石英，カリ長石，長石の斑晶が多い。																	
											24.59m，25.09m，25.61m：傾斜40～45°の割れ目沿いに幅10～20mmが緑泥石化により淡緑灰色化し，径0.5～1mmの白雲母を伴う。	9 [0] (100)																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
26				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	25.40m：傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 25.41m：傾斜55°で幅1～3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。割れ目沿いはわずかに緑色化する。 25.61m：傾斜40°で幅1～2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。 25.96m・50°～26.22m・45°の間は，全体が風化で細片状～砂状化が主体となる。	9 [0] (100)	CL'													
27	-12.26 -12.30	27.16 27.22		コア欠知		Eg	Ⅴg				26.78～27.75m：低密着割れ目が1～3cm間隔で分布し，ハンマーの打撃で径1～3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目沿いに砂状化し，27.00～27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。 27.16～27.22m：スライム	5 [0] (100)	D'													
28				花崗斑岩	灰褐	Eg	Ⅴg Ⅵg	cg dg	δ	2 4 3 4	●27.75～28.43m：破砕部 27.75～27.91m：粘土質礫状部（Hb） 上端20°で砂状化し不明瞭，下端15°で直線的にシャープに連続。径2～3mmの石英粒，径5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐灰色，下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色を呈する。幅160mm。 27.91～28.33m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端15°，下端53°でともに直線的でシャープに連続。幅1～5mmの灰黄～にぶい黄橙～灰白色の軟質粘土が27.91～27.96mでは10～20°で，27.96m以深では網状に分布する。全体に明褐灰～にぶい黄橙色を呈する。	3 [0] (34)	D'													
29						Cg Dg Cg Bg	Ⅴg Ⅳg Ⅲg	cg bg	γ	2	28.33m：粘土状部（Hc-1） 傾斜53°で直線的にシャープに幅2～5mmの灰黄褐色の軟質な粘土からなる。 28.33～28.43m：粘土質礫状部（Hb） 上端53°，下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。灰白～明赤灰～明黄褐色を呈する。幅60mm。 28.43～29.73m：傾斜30～60°主体の低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。 28.57m：傾斜65°で幅2mmの粘土脈を挟むが，マンガン鉱染で黒褐色化する。 29.73～30.20m：硬質で割れ目も少ない。ほぼ未風化，未変質である。	5 [0] (100) 9 [0] (100)	CL'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅲg	bg	γ	2	30.20～31.03m：低密着割れ目も多いが，概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目，低密着割れ目は傾斜30～50°が主体で，それらに沿って薄く砂状化する部分もある。	12 [32] (100)	CL′			0 10 20 30 40 50											
31						Cg	Ⅳg	cg			31.03～32.30m：傾斜60～70°の割れ目，低密着割れ目が主体で，一部でこれらに斜交～直交する40～50°の割れ目，低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し，薄く砂状化する部分もあるが，粘土脈は殆んど挟まない。 31.25～31.40m間はやや湾曲した傾斜80～90°で，31.60～31.61mでは傾斜50°で，幅5～20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。 31.37～31.51m：1～1.5cm間隔で傾斜60～70°の割れ目，低密着割れ目が平行に分布する。 31.75～32.30m：傾斜85～90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な灰白色粘土が付着する。	7 [0] (100)																
32							Ⅴg				32.13m：傾斜60°，幅5～8mmで径1～3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化し残っている部分があり，岩片は移動や回転をしていない。 32.30～33.10m：一部で硬さ「B」の硬質岩片を含む。傾斜30～50°の割れ目と，これらに斜交～直交する60～80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上端側は，割れ目沿いの砂状化はないが，下端側の一部では，割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.68mに傾斜60°で，32.76mに傾斜30°で幅5～15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00～33.10mの細かい割れ目に幅0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。 33.10～33.65m：割れ目の面は一部酸化褐色化するが，砂状化や粘土は挟まない。 33.24m：傾斜75°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 33.29～33.96m：傾斜45～60°で幅2～5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。	9 [0] (100)	CM′														
33								bg																			
						Dg	Ⅴg	cg	δ																		
						Bg	Ⅲg	bg	γ			13 [34] (100)	CH′														
						Cg	Ⅳg	cg			33.65～37.15m：34.64m以浅はやや硬質主体，それ以深は硬質である。割れ目は傾斜30～50°が主体であるが，一部でこれらに斜交～直交する50～60°の割れ目も分布する。また，これらの2系統の割れ目と交差する70～90°の割れ目が35.42m付近，36.50m付近などに分布する。34.64m以浅では一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが，それ以深では砂状化しないものが主体である。33.75mに傾斜35°で幅20mm程度の珪化した脈を挟む。 34.00m：傾斜60°で幅1～5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下端側34.22m付近まで風化で軟質化する。 34.57m・45°～34.63m・65°間は細かい割れ目が発達し，全体に硬さ「D」に軟質化する。粘土化はないが，若干砂状化する。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。																
34							Ⅴg																				
						Dg			δ																		
						Cg	Ⅳg		γ			9 [0] (100)	CL′														
						Bg		bg					CM′														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
36				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	35.40m：傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し，径20～30mmに細片状を呈するが，岩片は硬く，砂状化や粘土化，粘土脈は伴わない。 35.90m：傾斜80°の低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが，連続性はない。	9 [0] (100)	CM'			0 10 20 30 40 50										
37					灰褐 褐灰	Bg Cg	Ⅳg Vg	bg cg			36.30～37.20m：傾斜75～90°の高角度割れ目が多く分布し，所々で傾斜50°前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが，粘土化や粘土脈は挟まない。 36.37m：傾斜45°の割れ目は交差する傾斜75～80°の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが，粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 36.68m：傾斜55°で幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布し，38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。 36.80～37.00m：傾斜75～80°の高角度割れ目に幅2～4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。 37.15～39.41m：上位に比べ割れ目が多く，傾斜40～50°が主体で，これに斜交～直交する60～80°の割れ目も分布する。37.15～37.68m間では粘土化部や粘土脈の挟在は殆んどないが，割れ目沿いに薄く砂状化するものもある。37.68～38.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。38.95～39.41m間では割れ目が消滅することが多い。 37.15～37.68m：マンガン鉱染を受け，割れ目とその周辺は黒褐色化し，全体的には褐灰色を呈する。	6 [0] (100)	CL'													
38					にぶい橙	Bg	Ⅳg Vg Ⅳg Vg Ⅳg	bg			38.12～38.20m：割れ目沿いに褐色化するが，岩片は劣化していない。	4 [0] (100)	CM'													
39						Dg	Vg	cg	δ	3	38.95～39.41m：風化と変質で軟質化する。上端25°，下端30°で囲まれた39.34～39.41mの区間は，傾斜20～30°や60～65°で幅1～4mmの灰白～にぶい橙色の軟質な粘土脈が多く分布する。															
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	39.41～40.00m：上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化，未変質で堅硬である。 39.50m：傾斜20°で幅2～4mmの白色変質脈を挟む。	7 [0] (100)														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
41				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	Vg	bg	γ	2	40.00～40.68m：傾斜40～50°の割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を挟むが，分布は少ない。 40.24m・40°～40.28m・45°の割れ目に囲まれて，やや軟質化する。上端側はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状～粘土化は伴わない。	10 [10] (100)	CL′													
						Cg		cg																			
						Bg	Ⅳg	bg			40.68～41.62m：傾斜75～85°の高角度割れ目が41.00～41.53mの間でやや湾曲しながら連続する。幅5～10mm程度が砂状～径3～5mm程度の礫状を呈する。礫状部の礫に移動や回転は見られない。高角度割れ目に囲まれた区間は全体に軟質化し，高角度割れ目の一部には幅0.5mmの軟質な灰白色粘土がわずかに付着する。高角度割れ目と斜交～直交する割れ目は傾斜20～50°が主体で，傾斜70°前後の低密着割れ目も分布する。割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが，粘土部や粘土脈は殆んど分布しない。																
42						Dg	Vg	cg	δ		40.95m：傾斜45°で幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。	7 [0] (100)														
						Bg	Ⅳg	bg			41.52～41.62m：傾斜40°と85°の割れ目に囲まれて，径5～10mmの角礫状を呈する。硬質な砂状の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着せず，角礫状部は連続しない。 41.62～42.37m：傾斜40～50°の割れ目が主体で，傾斜40～50°と80°前後の低密着割れ目も多い。割れ目，低密着割れ目には砂状化，粘土脈などの挟在物はない。42.03mなどでは傾斜55°の割れ目沿いの一部が径3～5mmで硬質細片化する。		CM′														
						Cg	Vg	cg			41.92m：傾斜40°で幅5～6mmの石英脈が母岩に密着して連続する。脈の周辺に径0.1mmの金属鉱物が晶出する。	7 [0] (100)														
43						Bg	Ⅳg		γ		42.37～42.61m：低密着割れ目が細かい網状で分布し，打撃で分離し易い。42.37～42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し，岩片も径10mm前後に細片化する。岩片間に軟質の白色粘土がごくわずかに付着する。 42.43m：傾斜60°の割れ目は，交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに変位させている。割れ目面に条線が認められる。割れ目の挟在物は不連続で，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。																
44						Cg	Vg	bg			42.61～43.34m：傾斜30～50°の割れ目が主体で，ほぼ平行に分布する。割れ目は薄く酸化褐色化するが，砂，粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化するが，劣化は伴わない。 43.29m：傾斜55°で幅3～4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.34～45.00m：岩片は硬いが，低密着割れ目が細かく分布する。割れ目は傾斜50～70°と，これに斜交～直交する30～60°が主体で，割れ目の一部は薄く砂状化したり，幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟むものもある。 43.34m：傾斜55°の割れ目沿いが幅2mmで砂状化し，一部で径1mmの白雲母が晶出する。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	12 [12] (100)	CL′														
								cg			43.35m：上記の割れ目と平行に幅3～5mmの石英脈が連続する。	6 [0] (100)														
								bg			44.67m：傾斜65°の割れ目は，交差する60°の割れ目を止めて，やや波打ちながら連続する。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 44.83m：傾斜60°の割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色粘土が付着する。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
46				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	45.00～45.45m：傾斜60～70°の割れ目，低密着割れ目が主体で，これらに斜交～直交する40～60°の割れ目，低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが，粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。 45.24m：傾斜45°で幅2～18mmと膨縮した石英脈が連続する。上端側の一部は割れ目化，下端側は密着する。 45.45～46.06m：傾斜70～80°とこれに斜交～直交する40～60°の割れ目，低密着割れ目が主体で，特に低密着割れ目が多く，約10～30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。 45.81m：傾斜45°の割れ目は，直交する傾斜70°の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 46.06～46.31m：互いに直交する傾斜50°前後の割れ目が分布する。割れ目に挟在物は伴わない。 46.31～46.67m：傾斜40～50°の割れ目，低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し，一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが，全体にやや硬質である。 46.67～47.48m：割れ目，低密着割れ目とも挟在物はない。46.85～47.00mに傾斜85°の低密着割れ目が分布する。	5 [0] (100)	CL′													
						Bg	Vg	cg																			
							Ⅲg	bg																			
						Cg	Vg	cg				12 [33] (100)															
47						Bg	Ⅲg	bg					CH′														
							Ⅳg				47.48～47.67m：傾斜60～85°の低密着割れ目が分布し細片化する。	18 [34] (100)														
48						Cg	Vg	cg	δ		47.67～48.84m：傾斜40～50°の割れ目が平行に分布し，傾斜40～50°ないし60～70°の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目沿いの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。		CL′													
											48.17m：傾斜50°で幅5～7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5～10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。															
					灰褐		Vg					9 [0] (100)															
49							Ⅳg	bg	γ		48.84～49.83m：傾斜40～50°の割れ目，低密着割れ目が主体で，49.17m以深では割れ目沿いに砂状化することが多い。一部の割れ目，低密着割れ目で幅0.5mmの軟質な白～明黄褐色の粘土脈を挟む。		CM′													
					にぶい橙		Vg	cg	δ	3		8 [0] (100)	CL′														
					緑灰	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	49.83～52.07m：傾斜20～40°の割れ目が主体で，一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と調和的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03～50.11m間は若干風化し，割れ目の一部にごく薄い砂を挟む。		CM′													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
51				花崗斑岩	緑灰 暗灰黄 緑灰 灰褐	Bg	Ⅳg Ⅴg Ⅳg	bg	γ	2	50.81m：傾斜40°の割れ目は，交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 51.30m，51.33m：傾斜38°，47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66～52.07m：傾斜80～90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m：傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。	9 [0] (100) 14 [35] (100)	CM'													
52						Eg	Ⅵg	dg		3	52.07～52.55m：径10～30mm主体の岩片と，岩片間を縫うように分布する幅1～5mmの軟質な灰白～白色の粘土脈からなる変質部である。 52.07m：傾斜45°幅7～8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m：傾斜25°で幅3～5mmの硬質な白色の石英脈を挟み，明オリーブ灰色の幅2～3mmの軟質粘土を伴う。 52.55～52.97m：不規則な割れ目，低密着割れ目が多く，径10～30mmに岩片化する。一部に幅0.5～1mmの石英脈を挟み，52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97～53.46m：破砕部 52.97～53.05m：粘土質礫状部（Hb） 上端50°，下端50°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m：粘土状部（Hc-1） 傾斜45°で直線的であるが，連続しない。幅3mmの軟質な褐灰色粘土からなる。径1～2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05～53.10m：粘土質礫状部（Hb） 上端50°で直線的に連続，下端はコア擾乱部で不明瞭。径1～3mmの石英粒，径5～10mmの一部粘土化，一部硬さ「D」の岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30～40mm。 53.10～53.44m：粘土混じり角礫状部（Hj） 上端はコア擾乱部で不明瞭，下端45°でやや波打って連続。径5～20mmの硬さ「D」と粘土化した基質からなる。基質中には幅1～2mmの軟質な白～緑灰色粘土脈が傾斜10～50°で分布する。全体に緑灰～にぶい橙～灰白色を呈する。 53.44～53.46m：粘土質礫状部（Hb） 上端45°でやや波打って漸移的に，下端45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白～緑灰色を呈する。幅4～12mmと膨縮する。	8 [0] (100) 2 [0] (100) 4 [0] (100)	D'													
53						Cg	Ⅴg	cg		4																	
54						Eg	Ⅵg	dg		3																	
						Cg	Ⅴg	cg																			
						Dg							CL'														
						Cg				2																	
						Dg				3	53.46～53.68m：著しく軟質化する。 53.55m・55°，53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm，幅2～4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68～56.54m：傾斜30～40°とこれらに斜交～直交する60～80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m：傾斜20°で幅1～2mmの白色鉱物脈を挟み，その下位に幅10mmでカリ長石が濃集した脈を伴う。 54.44m：傾斜70°で幅3～8mmの方解石脈を挟む。上端側境界は割れ目化する。下端は母岩に密着しており，54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し，割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 54.44～54.64m：割れ目沿いに砂状化と径5～10mmに細片化する。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰	Dg				3	55.07m：傾斜55°で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。																
						Cg	Vg	cg		2	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く，一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着するが，粘土脈としては連続しない。 55.41m：傾斜55°の割れ目で，上端側の20°の割れ目，下端側の80°の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 55.80m：傾斜60°で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0～3mmの不連続な方解石脈を挟む。	4 [0] (100)	CL'													
56										3	56.18m・50°～56.23m・50°の割れ目に囲まれてやや軟質化する。	12 [12] (100)														
57					灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	56.54～56.57m：変質部 上端60°で直線的にシャープであるが，浅部側延長部で70～90°で大きく湾曲，下端60°で1箇所で屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5～10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟質な白色の粘土質礫状部で全体の色調は灰白～明褐灰色で斑模様を呈する。幅10～15mmで，浅部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに分岐する。 56.57～57.63m：傾斜50～60°とこれと斜交～直交する20～60°の割れ目が主体である。割れ目には砂，粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。	6 [0] (100)													
						Cg	Vg	cg			57.63～57.75m：傾斜50～60°の割れ目，低密着割れ目が5～10mm間隔で平行に分布し軟質化する。															
58						Bg	Ⅳg	bg			57.75～58.37m：割れ目は少ないが，主に58.00～58.15m間に傾斜40～50°の低密着割れ目が多い。砂，粘土の挟在物はない。57.90～58.37m間に傾斜80～90°の割れ目が連続し，他の割れ目との交差部の一部は径3～5mmに細片化する。		CM'													
							Vg	cg			58.37～58.85m：傾斜20～30°の割れ目と80～90°の割れ目が交差し，交差部の一部はごく薄く砂状化したり，径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。	9 [0] (100)													
						Cg					58.85～58.96m：傾斜50°の割れ目が主体である。															
59						Bg	Ⅳg	bg			58.85m：傾斜50°の割れ目は直線的でシャープに連続し，面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや偏平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色の軟質粘土からなる粘土混じり岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で，周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。															
						Eg	Ⅶg	dg		3	58.96～59.47m：傾斜50～70°の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	7 [0] (100)														
						Dg	Vg	cg			59.16m：傾斜45°の割れ目の下端側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが，花崗斑岩との境界は漸移的である。 59.47～60.06m：傾斜30～50°の割れ目，低密着割れ目に幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。		CL'													
						Cg																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
61				花崗斑岩	灰褐	Cg	Vg	cg	γ	3	●60.06～60.38m：破砕部 60.06m：粘土状部（Hc-1） 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟質～一部やや硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。 60.06～60.16m：粘土質礫状部（Hb） 上端45°で直線的にシャープに連続，下端は不明瞭。径2～3mmの石英粒，径5～10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30～50mm。 60.16～60.38m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端不明瞭，下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化～硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1～3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐灰～緑灰色を呈する。 60.38～60.74m：割れ目は消滅しかかっているが，傾斜50～60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し，傾斜50～80°の石英，方解石の白色鉱物脈が幅2～5mmで分布する。 60.74～60.96m：径5～20mmの硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが，原岩組織は認められる。 60.96～61.39m：低密着割れ目沿いに主に径10～20mmに細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。 61.25～61.28m：傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。 61.39～61.47m：変質部 上端20°，下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ，径5～20mmの硬さ「D」の岩片と粘土化した基質からなる。 ●61.47～61.52m：破砕部 61.47～61.52m：粘土質礫状部（Hb） 上端5°，下端45°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒，径2～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。 61.52m：粘土状部（Hc-1） 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟質な暗緑灰色粘土からなる。 61.52～62.42m：傾斜20～60°とこれに斜交～直交する50～60°の割れ目が分布し，このうち，傾斜20～30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり，幅1mm前後の軟質な暗緑灰～灰白色の粘土を挟むことが多い。 62.38m：傾斜30°の割れ目は，交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 62.42～62.49m：上端25°，下端20°の割れ目に囲まれ，径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。 62.49～62.74m：変質で著しく軟質化するが，割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10～40°が主体で，幅0.5～1mmの暗緑灰色，灰赤色の粘土脈を挟む。 62.67m：傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰赤色粘土を挟み，その下端側幅3～12mmに径5mm前後の白色礫と軟質な白色粘土脈を伴う。 62.74～63.29m：割れ目は消滅しかかるが，傾斜70°前後と40°前後の割れ目，低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが，岩片間にフィルム状の淡緑灰～白色粘土が付着することが多い。	4 [0] (100)	CL'													
						Eg	Vg	dg																			
						Dg	Vg	cg																			
						Eg	Vg	dg																			
						Cg	Vg	cg		2																	
										3																	
						Eg	Vg	dg		4																	
62					明褐灰	Dg	Vg	cg		3		4 [0] (100)															
					緑灰	Eg	Vg	dg		4		3 [0] (100)															
63						Dg	Vg	cg		3																	
						Eg	Vg	dg				3 [0] (100)	D'														
64					灰褐																						
						Bg	Vg	bg		2		9 [0] (100)	CM'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
						Cg	Vg	cg																			
						Eg	VIg	dg																			
						Dg	Vg	cg		3		4 [0] (100)															
						Eg	VIg	dg																			
61					灰褐	Cg	Vg	cg		2																	
										3																	
						Eg	VIg	dg		4		4 [0] (100)	CL'														
62				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg		3																	
					緑灰	Eg	VIg	dg	γ	4		3 [0] (100)															
63						Dg	Vg	cg		3	63.03～63.04m：傾斜40°で幅8mmの灰色の石英脈を挟む。 63.21m：傾斜45°で幅1～3mmの灰色粘土脈を挟む。 63.29～63.67m：上位よりも著しく軟質化し，径10mm前後の岩片間に幅1～2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 63.49m：傾斜55°の割れ目で多数の幅1～2mmの軟質な白色粘土脈が止まっている。割れ目には幅0～1mmの暗灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 ●63.67～63.90m：破砕部 63.67～63.83m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端45°，下端60°でともに一部不明瞭で連続。径5～20mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間を幅1～2mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。また，63.72mに傾斜45°で幅2～3mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体は淡い緑色を帯びた灰白色を呈する。 63.83～63.88m：粘土質礫状部（Hb） 上端60°で不明瞭，下端70°で直線的にシャープに連続。径5～10mmの一部粘土化，一部硬さ「E」の岩片を多く含み，基質中に幅2～3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状～レンズ状に含む。軟質。灰白～赤灰色を呈する。幅20～30mm。 63.88～63.90m：粘土状部（Hc-1） 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5～10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。 63.90～64.05m：硬さ「D」の径5～20mmの花崗斑岩の岩片と粘土化で著しく軟質化した基質からなる。64.05mの傾斜70°の直線的でシャープな割れ目で下位と境される。 64.05～64.57m：一部に硬さ「C」を含むが，硬さ「B」の岩片が主体である。互いに交差する傾斜70°前後の割れ目，低密着割れ目が主体で，交差部の一部で径10～20mmの岩片に細片化する。割れ目に挟在物は分布しない。 64.57～65.06m：傾斜10～30°の割れ目が主体で，同傾斜の低密着割れ目も分布する。 64.83m：傾斜60°で幅1mmの硬質な緑灰色粘土脈を挟む。	3 [0] (100)	D'																	
64					灰褐	Eg	VIg	dg																			
						Bg	IVg	bg		2		9 [0] (100)	CM'														

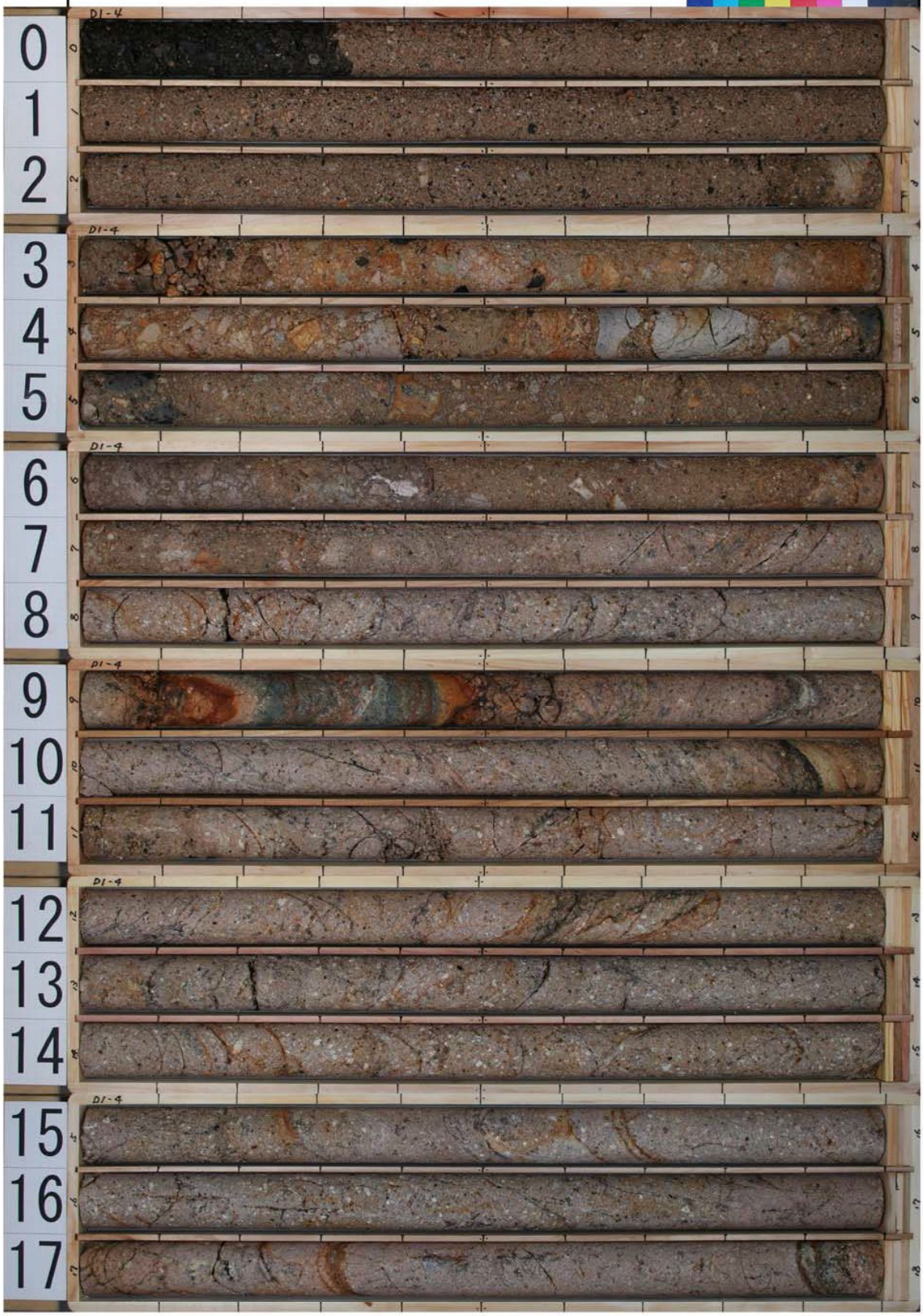
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
66				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	65.06～66.65m：傾斜30～60°とこれらに斜交～直交する40～80°の割れ目が主体で，割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まないが，割れ目沿いに径5mm前後に細片化することがある。65.09m・50°，65.31m・60°の各割れ目沿いに，各々幅5～20mm，幅5mmが緑灰色化し，径0.5mm以下の微小な黄鉄鉱が少量晶出する。	5 [0] (100)	CM'														
67						Cg	Ⅴg				66.50～66.65m：傾斜55～60°の割れ目がほぼ平行に5～20mm間隔で分布する。粘土は挟まない。	4 [0] (100)														
					明褐灰	Eg	Ⅵg	dg		3	66.64m：傾斜65°の割れ目沿いに幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し，幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。																
						Dg	Ⅴg	cg			66.65～66.85m：変質部 主として変質により著しく軟質化する。上端は傾斜65°の割れ目で直線的でシャープに上位の岩盤と接するが，下端は漸移的である。径5～20mmの硬さ「D」～粘土化した岩片と粘土化した基質からなる。基質中には所々に幅1～2mmの軟質な粘土脈が分布する。 66.85～67.88m：割れ目は一部が消滅，一部は傾斜60～70°が主体で残留する。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部に幅1～3mmの軟質な白～暗緑灰色の粘土脈が分布する。	2 [0] (100)														
68						Cg																					
						Eg	Ⅵg	dg			67.88m：傾斜65°の割れ目は，交差する60～70°の低密着割れ目を多数止めているように見える。割れ目には挟在物が認められるが，割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 67.88～67.98m：上端65°，下端55°の割れ目で囲まれ，変質と風化で著しく軟質化する。せん断面は分布しない。 67.98～70.00m：傾斜50～70°の割れ目，低密着割れ目が主体で，割れ目の一部は砂状化～径5mm前後に細片化するが，全体に粘土化は殆んどしていない。69.80m以深には，幅1mm以下の軟質な白色粘土脈が少量分布する。また，68.32m，68.57m，68.84mには傾斜40～70°で幅1～3mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。		CL'														
						Dg																					
						Cg																					
						Dg																					
						Cg						3 [0] (100)															
69						Dg	Ⅴg	cg		2																	
					灰褐	Cg																					
						Dg																					
						Cg					69.52m・70°，69.75m・70°の割れ目は，交差する多数の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	5 [0] (100)														
					明褐灰	Dg																					
	-42.55	70.00																									

[redacted]

孔番　D1-4 孔　　深度　0.00m ～18.00m

孔口標高　6.95m

[redacted]



[redacted]

孔番　D1-4 孔　　深度　18.00m ～ 36.00m

孔口標高　6.95m

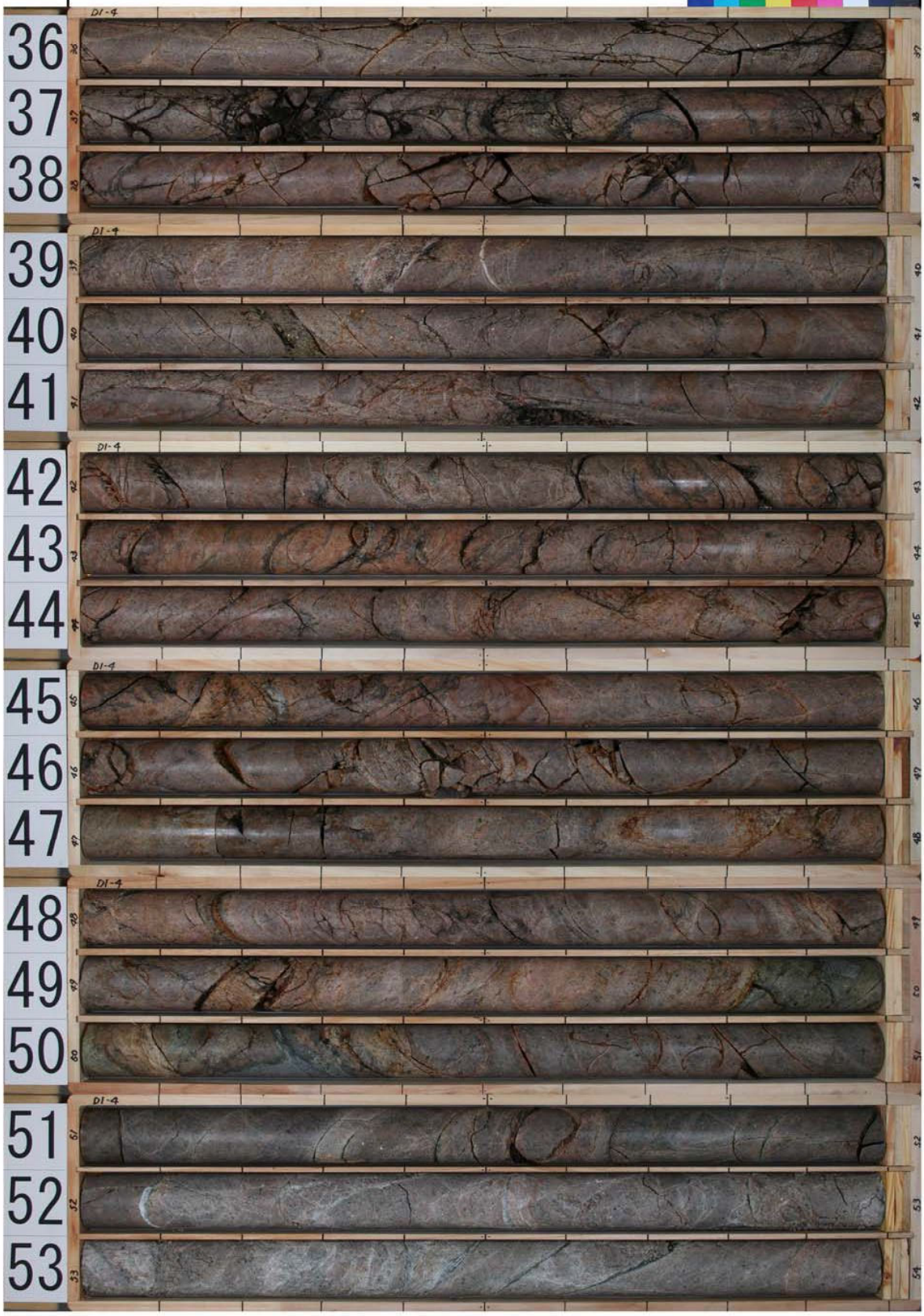
[redacted]

[redacted]

孔番　D1-4 孔　　深度　36.00m ～ 54.00m

孔口標高　6.95m

[redacted]



[redacted]

孔番　D1-4 孔　　深度　54.00m ～ 70.00m

孔口標高　6.95m

[redacted]

余白

H27－B－3

余白

ボーリング柱状図

調査名 [redacted]

事業・工事名 [redacted]

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H27-B-3	調査位置	X:162.490 , Y:897.400			北緯	35° 45' 10.54"
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015 年 5月23日～ 2015 年 7月 4日	東経	136° 1' 0.71"
調査業者名	[redacted]	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.06 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 53.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	180.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD[%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入試験) N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				盛土	黒褐						0.00～10.05m：盛土 0.00～0.35m：礫 径2～3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。					0 10 20 30 40 50											
					にぶい黄褐						0.35～1.70m：礫混じり砂～礫質砂 径2～20mm程度の花崗岩類，黒色砂岩の角～亜角礫を30%以下で含む粗粒砂からなる。ルーズ。	(100)															
1																											
					灰黄褐							(100)															
											1.70～10.05m：よく締った礫混じり粗砂～粗砂～砂礫からなる。 1.70～5.27m：砂																
2																											
					にぶい黄褐							(100)															
3																											
											3.50m以深は粗粒砂が主体となる。 3.61～3.67m：マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。	(100)																
4																											
												(100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				盛土	にぶい黄褐						5.27～10.05m：砂礫 径2～170mm程度の花崗岩類，砂岩の角～亜角礫を含む粗粒砂からなる。	(100)					0 10 20 30 40 50											
											5.60～7.07m：砂を挟む。中粒砂主体で塊状。ラミナなどの堆積構造は分布しない。径2～3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。																	
6																												
											6.50m以深は締まりが良い。	(100)																
7																												
												(100)																
8											8.01～8.37m：砂を挟む。																	
												(100)																
9																												
					オリーブ灰						9.21～9.66m：腐食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗斑岩細骨材少量含む)。	(100)																	
					灰黄褐						9.80m付近にモルタルを含む。																	

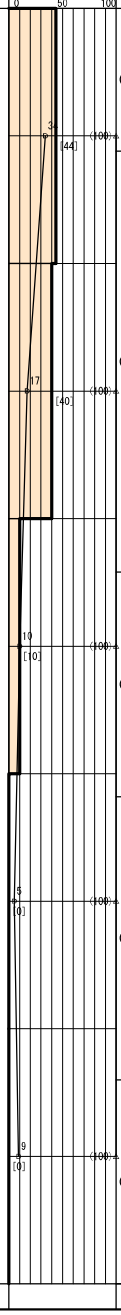
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
	-0.05	10.05		盛土	灰黄褐																						
11				花崗斑岩	明褐灰	Dg	vg	cg	δ	2	10.05～180.00m：花崗斑岩 径1～3mmの石英，長石を斑晶とする花崗斑岩。長石は白濁化することが多い。 10.05～12.96m：CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05～11.20mと中央部の11.82～12.00mは風化が進んで硬さ「D」である。 硬さ「C」の区間の一部で割れ目に挟在物を含まない部分があるが，多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟む。長石の多くは白濁化している。 10.70～10.80m：硬さ「C」の硬質岩片が残留する。	4 [0] (100)													
						Cg		bg	γ		11.20～11.82m：硬さ「C」主体で挟在物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含む。 11.40～11.55m：割れ目が交差し岩片化するが，劣化は伴わない。	7 [0] (100)	CL'													
						Dg			δ	3	11.82～12.00m：上下位よりも軟質化する。11.97～12.00mは粘土化が進む。																
12						Cg			γ	2	12.00～12.96m：硬さ「C」主体であるが，割れ目沿いに幅1mm程度で薄く砂状化することが多い。また，各割れ目は弱くマンガン鉱染を受け，面の一部は黒褐色化する。	9 [0] (100)															
						Eg		cg		3	12.96～14.62m：D，CL 上端側と下端側はD級，中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目は残留しているが，全体に硬質な砂状化が進み，所々，灰白色の粘土を径5mm前後の斑点状～幅1～3mmの脈状に含む。	3 [0] (100)	D'													
13						Cg			δ	2	13.64～14.30m：硬さ「C」の岩片主体で20～40°の密着度の低い割れ目が同方向に1～2cm間隔で分布する。																
						Eg				3	14.22m：43°で幅1mmの軟質黄褐色粘土を挟む割れ目は，交差する80°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ，系統的な割れ目も存在しない。 14.30～14.62m：上端17°で幅1～5mmの軟質赤灰色粘土を挟む割れ目，下端50°の割れ目で囲まれ著しく軟質化しているが，一部に硬さ「D」も残留する。原岩組織や割れ目はわずかに残留する。所々に幅1～2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含む。	6 [0] (100)	CL'													
14						Dg				2	14.62～20.04m：CL 20～40°の割れ目が主体で，割れ目沿いに風化で砂状化が拡大する部分も含む。16.49m以浅は硬さ「D」主体，16.49m以深は硬さ「C」主体である。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2																	
						Eg	VIg	dg	ε	3	15.33～15.43m：風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟質化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。	10 [10] (100)														
						Dg	Vg				15.73～15.80m：80°の割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。															
16										2	16.31m：50°の割れ目沿いに幅5～15mmでやや硬質な白色シルト～粘土を挟む。															
											16.49m：35°の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。	7 [0] (100)														
											16.76～16.87m：径10～20mmの岩片状を呈する。岩片間は幅1～2mm程度で砂状化する。															
17																											
							IVg			3	17.13～17.31m：割れ目の一部に幅1～2mmの軟質灰白色粘土を挟む。															
								cg	δ		17.40～19.00m：密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離，細片化する。割れ目化し，開口しているものも多い。	8 [3] (100)	CL'												
					にぶい橙						17.85～18.00m：割れ目が交差，一部で径20～30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。															
18											18.05～18.47m：珪化変質により石英量が多くなり硬化する。															
						Cg					18.43～20.04m：一部の割れ目沿いや岩芯がマンガン鉱染を受け，黒褐色化するが劣化は伴わない。	5 [0] (100)														
										2																	
19					明褐灰		Vg				18.90m：50°の割れ目に幅1～5mmの淡黄褐色砂を挟む。															
												9 [0] (100)															
											19.59m：40°と80°の割れ目が交差し，80°の割れ目は40°の割れ目に止められる。80°の割れ目は19.65mでは幅10mmで砂状化するが，下位に向かって割れ目は閉じていき，砂の挟在物も分布しなくなる。40°の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ，系統的な割れ目も存在しない。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	δ				CL														
					にぶい橙	Bg	Ⅳg	bg	γ		20.04～20.93m：CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが，岩片は堅硬。長石の一部は白濁化するが，未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	11 (24) (100)	CM'													
21						Dg	Vg	cg	δ		20.93～26.70m：CL 45°前後の割れ目が主体。一部で70～90°の高角度割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化するが，部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また，所々，幅1～2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。22.69m以浅は硬さ「D」，22.69～23.71mは硬さ「C」，23.71m以深は硬さ「D」が主体で，硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。 21.14～21.24m：上端42°，下端49°の割れ目の間が全体的に風化し，砂状化が進む。酸化，マンガン鉱染が見られる。 21.55～21.65m：風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。	3 [0] (100)													
22										2	21.70～22.40m：高角度割れ目を主体に，幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1～3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 22.03～22.63m：70～90°で湾曲して連続する割れ目沿いに幅5～10mmで砂状化し，幅1～2mmの軟質粘土脈を伴う。 22.10～22.45m：一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。	5 [0] (100)													
23					明褐灰	Cg	Ⅳg	bg	γ		22.50～22.64m：上端60°で幅2～3mmの褐色粘土脈，下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく，一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91～23.49m：40°前後の割れ目が同方向に分布し，これらに直交～60°斜交する60～80°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の細粒部は，局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。 23.45～23.71m：80°で幅1～3mmの軟質白色粘土脈を挟む。	5 [0] (100)	CL'													
24						Dg	Vg	cg	δ		23.71～24.53m：軟質化し，硬さ「D」主体。 23.71～23.95m：80～90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06～24.22m：硬さ「C」主体。 24.37m：45°で幅2mmの石英脈を挟む。	10 [10] (100)													
						Cg	Ⅳg		γ		24.53～26.70m：硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60～24.92m：80～90°の割れ目に幅1～5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
26				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	25.00～25.81m及び25.09～25.28m：85～90°の割れ目に幅1～2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟質化し，硬さ「D」の部分も認められる。 25.80m以深は割れ目が多くなる。割れ目沿いに砂状化する部分が多い。	18 [18] (100)	CL'			0 10 20 30 40 50										
							Ⅴg				26.22m：50°の割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。	8 [0] (100)														
27					灰白	Eg	Ⅵg	dg	δ	4	●26.70～26.90m：破砕部 26.70m：粘土状部（Hc-I） 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒，岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70～26.71m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端43°，下端43°でともに直線的に連続。径2～3mmの石英粒，径5～10mmの粘土化～硬さ「D」岩片を20～30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅10mm。 26.71m：粘土状部（Hc-I） 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。軟質。灰白色を呈する。幅1mm。	5 [0] (100)	D'														
28					明褐灰	Cg	Ⅴg	cg		3	26.71～26.90m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端43°で直線的に，下端54°でやや湾曲して連続。径2～3mmの石英粒，径5～10mmの粘土化～硬さ「D」岩片を20～30%含む。軟質。下端は幅1～2mmの粘土脈を伴う。灰白色を呈する。幅150～170mm。 26.90～27.57m：D 27.00m以浅は砂礫状，27.00m以深はバラけた礫状を呈するが，27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。 27.57～28.12m：CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目沿いに薄く砂や粘土を挟むことが多い。 27.98m：37°の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟在する。 ●28.12～28.14m：破砕部 28.12m：粘土状部（Hc-I） 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をごくわずか（5%以下）含む。軟質。浅黄色を呈する。幅1～3mm。	6 [0] (100)	CL'														
						Eg	Ⅵg	dg		4																	
29						Cg	Ⅴg	cg	γ	2																	
						Dg			δ	3																	
						Eg	Ⅵg	dg	γ	4	28.12～28.14m：礫質砂状部（Hb） 上端43°で直線的に，下端45～55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3～5mmの岩片からなる。にぶい黄橙色を呈する。幅5～7mm。 28.14～29.10m：CL 硬さ「C」主体で，28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-Iの粘土と同方向に近い40～60°で分布する。 ●29.10～29.12m：破砕部 29.10～29.11m：粘土状部（Hc-I） 上端49°で直線的に，下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をごくわずか（5%以下）含む。軟質。上端側は灰白色，中央部～下端側は灰黄褐色で縞状を呈する。幅5～10mm。	4 [0] (100)														
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3																	
											29.11～29.12m：礫質粘土状部（Hb） 上端50°，下端45～55°でいずれも波打って連続。径1～2mmの石英粒，径3～5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリーブ色帯びた灰白色を呈する。幅7～11mm。 29.12～30.56m：CL 30.02m以浅は硬さ「D」，以深は硬さ「C」主体。 29.15～29.60m，30.30～30.56m：割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。 29.47～29.59m：網目状の割れ目に白色粘土，マンガン鉱染が見られる。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
31				花崗斑岩	明褐灰	Dg Cg	Ⅳg	cg	γ	2	30.55m付近をはじめ，割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目，ゆ着割れ目が多い。 30.56～32.21m：CH 堅硬，割れ目の挟在物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが，劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆ着割れ目は殆んど分布しない。	CL'													
32						Bg	Ⅲg	bg	β		31.30m付近は59°，54°の割れ目が交差し，短柱状（コア長5cm前後）に砕けている。 31.62～31.66m：上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm，0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。	CH'													
33						Cg	Ⅳg		γ		32.11m：40°の割れ目が幅15～20mmで緑泥石化し，淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。 32.21～33.09m：CM 一部を除き，挟在物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口している。 32.30～32.53m：割れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが，劣化は伴わない。 32.53m：45°で幅2mmの軟質黄褐色粘土を挟み，その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	CM'													
34					灰褐	Dg	Ⅴg	cg	δ		33.09～34.20m：CL 60～90°の高角度割れ目が多く，一部で分岐～収れんを繰り返す。これらの割れ目はマンガン鉱染や幅1～2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また，風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は硬さ「C」の岩片も多く含む。	CL'													
						Cg	Ⅳg	bg	γ		34.20m：40°で幅2～3mmのやや硬質な灰白色粘土脈を挟む。 34.20～35.94m：CM 殆んどの割れ目に挟在物は分布しないが，岩芯の一部も含め，弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	CM'													

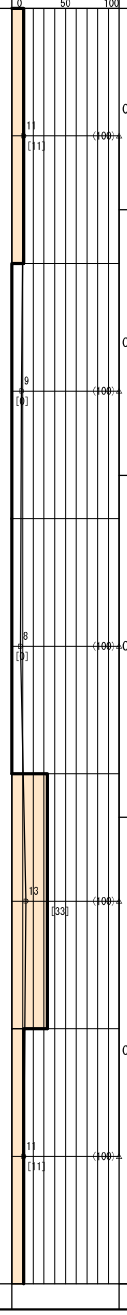


（標準貫入）試験 （N値～深度）図

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	35.31m：60°の割れ目沿いに幅3～5mmが砂状化する。 35.47m：5°の割れ目で90°の割れ目が止められる。5°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	8 [9] (100)	CM'												
36					にぶい褐	Bg	Ⅲg		β		35.94～37.30m：CH 堅硬。割れ目に挟在物は分布しない。 36.07～36.32m：割れ目沿いや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが，劣化は伴わない。密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	19 [43] (100)	CH'												
37					灰褐	Cg	Ⅳg		γ		37.03m：57°の割れ目沿いの一部で幅3mm前後が砂～細片化する。57°の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m，37.08mに見られる。57°の割れ目の砂～細片化部は直線性に乏しく，割れ目周辺の原岩組織は認められ，系統的な割れ目も存在しない。 37.30～37.55m：CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。	16 [16] (100)													
						Dg	Vg		δ		37.55～37.69m：CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進む。マンガンは砂状を呈する。															
						Eg			ε	3	37.69～37.81m：D 50～60°の割れ目沿いに風化で砂状化が進む。幅1mm以下の白色粘土脈も伴う。															
38						Cg		cg	γ	2	37.81～38.50m：CL		CL'													
									δ	3	38.21m以深は50°前後の割れ目沿いに風化，砂状化進む。また，少量の幅1～2mmの白色～褐色軟質粘土脈も伴う。	10 [10] (100)													
39						Bg	Ⅳg	bg			38.50～39.14m：CM 一部でゆ着割れ目を含むが，密着度は高く，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。		CM'													
						Cg		cg	γ	2	39.14～40.79m：CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を幅1～3mmで挟むことが多い。	10 [10] (100)	CL'												

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
				花崗斑岩	灰褐							
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	40.14～40.26m：50～60°の割れ目に幅1～2mmの軟質粘土脈を挟む。	CL′
						Dg	Ⅴg		δ		40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み，割れ目沿いの砂状化も拡大する。 40.72m：50°の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。	
41						Cg	Ⅳg	bg	γ		40.79～41.83m：CM 一部の割れ目を除き，割れ目に挟在物は分布しない。 41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い。一部では開口化する。 41.30m：60°の割れ目沿いに径2～4mmの石英が多く晶出している。	CM′
42						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	41.83～41.95m：D 上端60°，下端55°の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。 41.95～42.78m：CL 割れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40～50°の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。 42.36～42.40m：上下端とも40°の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。	CL′
						Cg	Ⅳg	cg	γ			
							Ⅴg					
43						Eg	Ⅵg	dg	δ	4	42.78～42.85m：D 風化で著しく軟質化するが，原岩組織や割れ目の一部は残留する。 ●42.85～42.91m：破砕部	
						Dg	Ⅴg	cg		3	42.85～42.87m：粘土混じり礫状部（Hj） 上端45°で直線的に，下端41°で波打って連続。径1～2mmの石英粒，径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1～2mmは風化で明黄褐色を呈し，明褐灰色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15～25mm。 42.87～42.91m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端41°，下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5～10mmの粘土化～硬さ「D」岩片からなり，岩片間の一部は粘土～幅1mmの白色軟質粘土脈が分布している。明褐灰色を呈する。幅20～30mm。	
44						Cg	Ⅳg	bg	γ	2	42.91～43.00m：D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。 43.00～43.17m：CL 割れ目沿いに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。 43.17～45.66m：CM 硬さ「C」を主体とするが，一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1～2mmの粘土，砂の薄層を挟在するが，挟在しない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが，劣化はない。一部でゆ着割れ目を含むが，密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	CM′

コア採取率（%）／最大コア長（cm）／RQD［%］



孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
		0 10 20 30 40 50											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
46				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	45.00～45.40m：80～90°の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。高角度割れ目は，凹凸が顕著であるが，面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 45.41～45.50m：割れ目が交差し，一部径5～20mmに片状化するが，砂や粘土は挟まない。	7 [0] (100)	CM'													
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	45.66～46.14m：CL 風化で割れ目沿いに細片化～砂状化が拡大する。45.96m以深は硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に挟む。		CL'													
47						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	46.14～47.58m：CM 堅硬であるが，長石の多くは白濁化する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。 47.00～47.23m：割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。 47.24～47.29m：上端35°，下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂～径5～10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	1 [21] (100) 1 [11] (100)	CM'													
						Cg	Ⅴg	cg	δ		47.58～47.77m：CL 35～45°の割れ目が多く，割れ目沿いに幅2～5mm程度で砂状～細片状化する。															
48						Bg	Ⅳg	bg	β		47.77～48.61m：CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが，一部で密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	5 [0] (100)														
49						Cg	Ⅴg	cg	δ	3	48.61～56.69m：CL 硬さ「C」と「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。割れ目沿いに幅10～30mm程度で風化による砂状化が進む部分もある。 48.61～50.56m：硬さ「C」主体で，49.49m・40°の幅15mm，50.18m・35°の幅30mmで砂状～細片状化が進む。灰白～褐色粘土も伴う。 48.78～48.79m：上端38°，下端50°の割れ目に幅10mmの砂状～細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	7 [0] (100)	CL'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	δ	3	50.00～50.42m：70°前後の風化した微細な割れ目が数条波打ちながら連続する。一部はハンマーの強打で分離する。	4 [0] (100)																
						Dg					50.56～51.16m：硬さ「D」主体で，30～50°の割れ目が多く，割れ目沿いに幅1～3mmで薄く砂状化することが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化する。																	
51						Cg					51.16m，51.45mの35°，49°の割れ目に幅1～3mmの褐色粘土を挟む。 51.16～52.00m：硬さ「C」主体。 51.35～51.64m：割れ目が交差し，交差部では砂状部が拡大している。また，白色粘土も少量伴う。	4 [0] (100)																
52						Dg					52.00～52.32m：径10～20mmの硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。																	
						Cg	IVg		γ	2	52.32～52.75m：白濁化した長石が多いが，硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。	5 [0] (100)	CL'														
						Dg					52.75～53.10m：岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」が残留する。																	
53					にぶい橙	Cg	Vg		δ	3	53.10～55.82m：密着度の低い割れ目が多く，一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し，白色粘土を伴うことが多い。橙色を帯びる。 53.40～53.60m：硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	5 [0] (100)																
54								bg			53.79～53.81m：上端23°，下端39°の割れ目の間が砂状～細片状を呈する。 53.85～54.31m：挟在物を伴う割れ目は少ない。																	
								cg			54.35～54.59m：割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受け，黒褐色化する。	5 [0] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
56				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Vg	cg	δ	3	55.08～55.55m：割れ目沿いに砂状化が進み，砂や粘土を挟むことが多い。55.08m：25°で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。 55.82～56.69m：挟在物を伴わない割れ目が多い。 56.00～56.30m：73～90°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として，下半分側は礫状～岩片状を呈する。	3 [0] (100)	CL'													
								bg	γ			2 [0] (100)															
57					浅黄	Eg	Vg	dg	cg	δ	4	●56.69～56.72m：破砕部 56.69～56.72m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端30°で波打って，下端31°で直線的に連続。径3～10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。下位のHc-1の粘土の近傍では，それに平行～ほぼ平行な微細割れ目も分布する。浅黄～黄灰色を呈する。幅20mm。 56.72m：粘土状部（Hc-1） 傾斜31°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに（5%以下）含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。 56.72～57.29m：D 割れ目沿いに砂状化が拡大し，一部で砂礫状を呈するが，原岩組織や割れ目の一部は残留する。 56.94～56.97m，57.00～57.02m：マンガン鉱染により黒褐色化する。 57.29～58.89m：CL 40～50°の割れ目が主体で，これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目の挟在物が多い。58.51m以深は斑点状～脈状のマンガン鉱染部が点在する。	3 [0] (100)	D'													
58					灰黄褐							2 [0] (100)															
					灰褐	Dg						3 [0] (100)															
					橙						58.68m・10°で幅1～3mm，58.82m・45°で幅7mmの石英脈が分布する。	2 [0] (100)	CL'													
59					灰褐	Eg	Vg	dg	γ	4	●58.89～58.98m：破砕部 58.89～58.94m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端20°で直線的に，下端25°で波打って連続。20～30°とこれに直交～斜交する割れ目で径3～5mmに細片化し，硬さ「E」主体の岩片と，岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土を挟む。褐灰色を呈する。幅40mm。 58.94～58.96m：粘土混じり礫状部（Hj） 傾斜25°で上下端ともに波打って連続。径2～4mmの石英粒，径5mmの硬さ「D」岩片からなる。やや硬質。にぶい黄橙色を呈する。幅15mm。 58.96～58.98m：礫混じり粘土状部（Hc-2） 傾斜25°で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2～3mmの石英粒，硬質岩片を5～10%含む。軟質。オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。 58.89～59.69m：CL 59.50m以深は粘土を挟むことが多い。 ●59.69～59.75m：破砕部 59.69m：粘土状部（Hc-1） 傾斜52°で上下端とも直線的に連続。石英粒，岩片は殆んど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69～59.75m：砂混じり岩片状部（Hj） 上端52°，下端37°でともに直線的に連続。径5～20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい橙色を呈する。幅40～60mm。 59.75～60.00m：CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	4 [0] (100)														
						Eg			δ	4																	
						Cg	Ⅳg		γ	2																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
61				花崗斑岩	灰褐	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	60.00～61.40m：CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。 61.18～61.23m：上端30°，下端33°の割れ目の上下端は波打っている。一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。	5 [0] (100)	CM'			0 10 20 30 40 50										
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	61.40～61.67m：CL 割れ目沿いに砂状化が進む。 61.47～61.51m：マンガン鉱染により黒褐色化する。	3 [0] (100)														
62						Cg	Ⅳg	bg	γ	2	61.67～62.23m：CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが，弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。																
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	62.23～64.52m：CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間は割れ目沿いに砂状化が拡大する部分もある。 62.82～62.93m：径5～20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し，砂礫状を呈する。幅1～2mmの軟質白色粘土脈も伴う。	5 [0] (100)														
63						Cg	Ⅳg	cg	γ	2	63.03m：30°の割れ目沿いに幅約10mmの淡橙色粘土，幅1～2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5～15mmでマンガン鉱染を受ける。 63.04～64.17m：硬さ「C」区間で，硬さ「B」も多く含む。 63.60～63.70m：コアチューブ引上げ時の擾乱により角礫状化している。	7 [0] (100)	CL'													
64						Dg	Ⅴg		δ	3	64.17～64.52m：割れ目沿いに砂状化することが多く，割れ目が不明瞭になり，消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明瞭に残留する。	4 [0] (100)														
					いぶし檜	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	64.52～66.39m：CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け，黒褐色化するが，劣化は伴わない。 64.66m：63°の割れ目に幅1～2mmの灰白色粘土を挟む。 64.78～64.84m：上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。		CM'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
66				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	65.19m：38°の割れ目沿いに幅10mmで軟質化が進む。薄い砂状部を挟む。 65.34m：35°の割れ目沿いに幅25mmの硬質な珪質部を伴う。緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが，劣化は伴わない。 65.59m：35°の割れ目沿いに幅20mmが砂状化～径5mmの細片化する。 65.61m：35°の割れ目を境として以深は堅硬となる。	7 [0] (100)	CM'														
					灰褐																						
						Bg					66.09m：55°の割れ目沿いに砂状化部を挟む。マンガン鉱染も伴う。																
67					にぶい褐						66.37～66.40m：割れ目沿いに幅30～40mmが淡緑灰色の緑泥石化する。砂～粘土化部など劣化は伴わない。 66.39～68.06m：CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目沿いの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多く，ハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。 66.80m：51°の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。 66.98m：63°の割れ目に幅2～3mmの灰白色粘土を挟む。 67.12m：55°の割れ目沿いに幅5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。 67.30～67.70m：60～90°の高角度割れ目に囲まれて径10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は幅2～3mmで砂状化する。	9 [0] (100)	CL'														
					明褐灰	Cg						6 [0] (100)															
68											68.06～68.93m：D 強風化で砂状化が拡大。径10～20mmの硬さ「D」「C」の残留岩片とともに砂礫状を呈する。																
						Eg	Ⅴg	cg	δ		68.40～68.60m：硬さ「D」の岩片からなる。	2 [0] (100)	D'														
					褐灰						68.69m：30°の割れ目沿いに幅15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化が見られる。上端側に石英も伴う。																
69					にぶい橙					3	68.93～70.10m：CL 30°前後の割れ目が主体で割れ目沿いに砂状化の砂を挟むことが多い。一部は幅10mm程度に砂状化が拡大している。幅1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。 砂状化が進む部分では硬さ「D」主体である。 69.22m：45°の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。																
						Cg						4 [0] (100)	CL'														
											69.70m以深は一部の割れ目と岩芯に弱くマンガン鉱染を受ける。																
					明褐灰																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰	Cg			γ	2	70.10～71.72m：D 風化と変質で著しく軟質化するが，原岩組織と割れ目は残留する。所々に硬さ「D」の岩片が残留し，71.30m以深は岩片量が多くなる。 70.17～70.20m：25°で波打ってマンガンが脈状に分布し，黒色を呈する。下端側は幅10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20～71.30m：粘土化ないし砂状化部主体。幅1mmの白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	2 [0] (100)	CL'														
71						Eg							D'														
							Vg	cg			71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。部分的に径1～2mmの石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	2 [0] (100)														
72						Dg					71.72～72.65m：CL 径10～20mmの硬さ「D」の岩片からなり，一部の岩片間では粘土化～砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く，ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12～72.17m：30°の割れ目沿いに褐色化し，砂状化も拡大する。		CL'														
									δ	3		3 [0] (100)														
						Eg					72.65～73.38m：D															
73							VIg	dg			72.93～73.11m：強変質で原岩組織と割れ目は消滅し，細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残留する。また，硬さ「D」の岩片も一部で残留する。 73.18～73.19m：20°の割れ目沿いに幅10～15mmでマンガンが脈状に分布する。 73.38～76.23m：CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが，全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が幅10mm前後で密に分布する。 73.38～73.58m：硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1～3mmの灰白色粘土脈を挟む。		D'														
												4 [0] (100)														
74					灰褐	Dg	Vg	cg			74.04m：25°の割れ目沿いに幅約20mmで軟質化が進む。 74.29～74.48m：20～30°の割れ目沿いに褐色化とマンガン鉱染を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72～74.84m：硬さ「C」主体であるが，密着度の低い割れ目も多い。 74.90m：33°の割れ目沿いに幅10mm程度が砂状化する。		CL'														
												5 [0] (100)														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
76				花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	δ	3	75.05～75.56m：割れ目の一部に幅1～2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。 75.46m：0°で幅3～5mmの珪質部が斜交する割れ目を止めて連続する。粘土化などの劣化は伴わない。珪質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ，珪質部と系統的な割れ目も存在しない。 75.80～75.87m：コアチューブ引上げ時の擾乱により径10mm前後の礫状コアを呈する。 76.11～76.23m：10～20°の低角度割れ目が多い。一部で幅0.5mmの灰白色粘土を挟む。 76.23～76.59m：D	7 [0] (100)	CL'													
77						Eg	Vlg	dg		4	76.41m以浅は径3～5mmに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。 ●76.59～76.89m：破砕部 76.59m：粘土状部（Hc-1） 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をごくわずか（5%以下）含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59～76.65m：粘土質礫状部（Hb） 上端47°で，下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1～2mmの石英粒，径3～10mmの粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む。軟質。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。灰白～にぶい橙色を呈する。幅40～50mm。 76.65～76.89m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端55°で，下端37°でともに直線的に連続。径3～10mmの硬さ「D」～粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°，33°のせん断面が分布する。一部でマンガン鉱染を伴う。にぶい橙～灰白色を呈する。 76.89～79.15m：CL 硬さ「D」の岩片主体であるが，部分的に硬さ「C」も含む。割れ目沿いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89～77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが，一部で消滅しかかっているものもある。 70～80°の高角度系を主体に，密着度が低い割れ目も多い。 77.58～77.65m：径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。 77.71～77.77m：径5～10mmで細片状～硬質な砂状を呈する。 77.79～77.85m：硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15～85.03m：D 主として変質による粘土化が進み，著しく軟質化している。一部で径5～20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10～30°の低角度系が主体である。 79.37～79.49m：上端42°，下端39°の割れ目の間は，岩片状～一部砂状を呈する。	2 [0] (100)	D'													
78					にぶい橙	Dg	Vg	cg		3		8 [0] (100)	CL'													
79					明褐灰							4 [0] (100)														
						Eg						4 [0] (100)	D'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
81				花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	80.24～80.31m：幅1mm，長さ10～20mmの細脈状にマンガンが密集する。 80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と，岩片間の粘土化部からなる。 80.76～81.68m：割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	5 [0] (100)	D'													
82					明黄褐						81.70～82.40m：岩片間の基質の一部で風化・褐色化が進む。 81.90～84.40m：表面がマンガンで黒色化した径1～2mmの石英粒が点在する。	4 [0] (100)														
83					明褐灰							3 [0] (100)															
84					明黄褐						83.30～83.74m：硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。 83.30～83.50m：岩片間の砂状～粘土化部が風化で褐色化する。	3 [0] (100)														
					灰褐						84.06～84.55m：10～20°の割れ目沿いに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。	3 [0] (100)														
							VIg	dg			84.55～84.89m：砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き，原岩組織は消滅する。															
						Dg	Vg	cg			84.89～85.61m：CL 一部に硬さ「C」の岩片も含むが，割れ目沿いに砂状化する。		CL'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
86				花崗斑岩	灰褐 にぶい褐	Dg					85.28～85.32m：緑泥石化し，淡緑灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト，黄鉄鉱を伴う。 85.36～85.60m：高角度割れ目沿いの砂状化が進む。 85.61～91.35m：D 硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり，全体として軟質化が著しい。 85.70m：15°の割れ目沿いが褐色を呈し，マンガン鉱染が見られる。	3 [0] (100)	CL'														
87	-54.59	87.18		花崗斑岩	褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	86.50～86.78m：40～50°の割れ目沿いに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く，ハンマーの打撃で細片化するものが多い。	2 [0] (100)	D'														
	-54.83	87.52		コア欠如							87.18～91.35m：強風化による砂状化が拡大し，残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂礫状を呈する。 87.18～87.52mの基質部はスライムである。	2 [0] (66)															
88				花崗斑岩	明褐灰	Eg	Ⅵg	dg	δ	3	88.18～89.05m：残留する岩片量が多くなり，割れ目も認識できるようになる。	3 [0] (100)	D'														
89							Vg	cg																			
							Ⅵg	dg			89.05～90.14m：岩片のみ採取され，基質の砂状～粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	3 [0] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3	90.14～90.55m：硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。		D'														
	-56.97	90.55										6 [0] (70)															
				コア欠如							90.55～90.85m：スライム。																
	-57.18	90.85																									
91				花崗斑岩						3	90.85～91.00m：硬質岩片のみ採取され，基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。																
					灰白 浅黄橙					4	●91.35～91.54m：破砕部 91.35～91.43m：粘土質礫状部（Hb） 上端36°で波打って，下端25°で湾曲して連続。径2～3mmの石英粒，径3～10mmの粘土化～砂状化した岩片を30%程度含む。軟質。灰白～にぶい黄橙色を呈する。幅80mm。	3 [0] (100)														
92					にぶい橙	Eg	VIg	dg	δ		91.43～91.44m：粘土状部（Hc-1） 傾斜25°で，上端は湾曲して，下端は波打って連続。径1mmの石英粒をごくわずか（5%以下）に含む。軟質。灰白色を呈する。幅7～10mm。 91.44～91.51m：粘土質礫状部（Hb） 上端25°，下端18°でともに波打って連続。径5mm前後の硬さ「D」岩片を30%程度含む。少し風化してやや軟質である。浅黄橙色を呈する。幅30～60mm。 91.51～91.54m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端18°で波打って，下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く，径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化する。岩片間には軟質粘土が分布する。にぶい橙色を呈する。幅20～25mm。	1 [0] (100)	D'													
93						Dg	Vg	cg		3	91.54～92.85m：D 径10mm前後の硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり，全体として軟質化が著しい。92.00m以浅は石英以外は砂状化する。 91.54～91.59m：上端20°，下端8°の割れ目間が強く変質し，淡黄色の砂礫状を呈する。 91.59～91.67m：上端8°，下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガン鉱染により，全体が黒色化する。 92.71～92.85m：上端68°，下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布する。	3 [0] (100)														
						Eg	VIg	dg			92.85～93.66m：CL 70～80°の割れ目が多く，割れ目沿いに幅1～3mm程度の砂状部～粘土化部を挟む。																
94						Dg	Vg	cg			93.66～93.86m：D 上下端80°の割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。 93.86～99.50m：CL 50～70°とこれに直交する40～50°の割れ目が多い。94.43m以浅は硬さ「D」が，94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25～94.31m：10～20°の割れ目に囲まれ砂礫状を呈する。 94.43m以深は岩片自体は硬さ「B」も多く含むが，割れ目が10～20mm程度の間隔で交差するため細片化する。 割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。		CL'													
					灰褐	Cg			γ			4 [0] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Cg			γ		95.50～95.71m：割れ目から分離し，径10mm前後に細片化する。	2 [0] (100)																
96											95.94～98.05m：硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。 95.96m：60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側の幅約5mmにマンガン鉱染部を伴う。																	
					明褐灰		Vg				96.52～97.60m：30～40°と60～70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60～70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。	2 [0] (100)																	
97						Dg				3																		
					にぶい橙			cg	δ		97.07m：15°で幅2～3mmの石英脈を挟む。劣化は伴わず密着する。																	
											97.58～97.69m：マンガン鉱染が進み黒褐色化する。 97.69～97.78m：硬さ「C」の岩片中に硬質な幅1～2mmの白色粘土が脈状～径2～3mmの斑点状で分布する。	5 [0] (100)	CL'															
98											98.02m：30°で幅2～5mmの石英脈を挟む。一部で褐色割れ目化する。 98.05～98.92m：硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目沿いに軟質化する部分もある。 98.20m：50°の割れ目に幅3～5mmの褐色粘土を挟む。																			
					灰褐	Cg	Ⅳg					7 [0] (100)																
99											98.92～99.50m：硬さ「D」主体。全体に軟質化するが風化，変質は弱い。																	
						Dg	Vg		γ	2																		
						Eg	Ⅶg	dg	δ ε	3	●99.50～99.68m：破砕部 99.50～99.56m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端43°で直線的に，下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と，これに直交～60°斜交する割れ目で径5～10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1～3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56～99.57m：礫混じり粘土状部（Hc-2） 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1～3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含み，フィルム状の細粒部が挟在している。やや硬質。灰白色を呈する。幅5～10mm。 99.57～99.68m：砂混じり岩片状部（Hj） 上端38°で波打って，下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60°斜交する割れ目が多く，径5～20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず，砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し，褐灰色を呈する。幅85mm。 99.68～100.50m：CL 硬さ「D」主体。	2 [0] (100)																		
					褐灰																							
					にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	2																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Ⅴg	cg			100.00～101.00m：密着度が低い割れ目～ゆ着割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。		CL′														
									γ	2		5 [0] (100)														
101					灰褐	Cg	Ⅳg	bg					CM′														
						Dg	Ⅴg		δ	3	101.45～101.78m：幅1～2mmの白色～黄色粘土が脈状に多く分布する。	8 [0] (100)														
102						Cg		cg			101.78～102.56m：CL 硬さ「C」主体で，割れ目沿いに砂や粘土を挟む。		CL′														
												12 [12] (100)															
103					褐灰		Ⅳg		γ		102.56～104.28m：CM 硬さ「B」で堅硬である。挟在物を伴う割れ目は少ない。短柱状～柱状コアには幅1～2mmの白色筋状のゆ着割れ目が多く分布するが，ハンマーの強打で分離しない。一部で幅2～3mmで砂状～細片状化部を挟むものもある。															
						Bg		bg		2	103.24m，103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を止め，前者で幅2～3mm，後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。65°の割れ目沿いの砂は局所的で，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。	8 [0] (100)	CM′													
104						Cg	Ⅴg	cg	δ		103.94～104.00m：風化で淡褐色化し軟質化する。															
						Bg	Ⅳg	bg	γ β		104.28～105.88m：CM 堅硬で塊状。一部で白い筋状のゆ着割れ目が分布するが，密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。104.28m，104.61mに70°の割れ目が分布し，前者は幅2mmの砂を挟在し，マンガンも伴う。	18 [23] (100)														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
106				花崗斑岩	褐灰	Bg			β		105.14m：67°の割れ目沿いに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。 105.33～105.52m：割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。	18 5 [31] (100)															
107					にぶい橙	Cg			γ		105.88～108.71m：CM 岩片は堅硬であるが，全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。ゆ着割れ目も多く，褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが，挟在物のない割れ目が主体。 106.00m，106.16m：73°の割れ目が分布し，前者には幅2～5mmの砂を挟み，マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。 106.32～106.60m：潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布し，全体が軟質化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。	10 [10] (100)															
108					褐灰		IVg	bg		2	107.30m以深では径2～3mmの緑泥石の暗緑灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。 107.60～108.60m：径5～10mmの大型のカリ長石の斑晶を多く含む。	7 [0] (100) CM'															
109					明褐灰	Bg						10 [10] (100)															
					褐灰				β		108.68～108.71m：割れ目沿いに細片化する。 108.71～112.27m：CM 堅硬・塊状。白い筋状のゆ着割れ目を多く含むが，大半が周囲と同化し，密着度が高い。ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目沿いはごく薄く風化で褐色化するが劣化はない。	15 5 [25] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
111				花崗斑岩	褐灰	Bg	Ⅳg	bg	β	2	110.11～110.95m：50～60°とこれに直交～斜交する10～30°の割れ目やゆ着割れ目が多い。ゆ着割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており，一部は後者の割れ目が前者の割れ目と横断している。50～60°の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 111.14m：76°の割れ目に幅1～2mmの緑泥石粘土～シルトを挟む。径0.1mmの微小なセリサイトも点在する。 111.31～111.34m：割れ目沿いに薄く風化・褐色化する。	15 [25] (100) 12 [32] (100)	CM'														
112											112.00～112.27m：70～80°とこれに直交する20～30°のゆ着割れ目が約10mm間隔で密集するが，密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。 112.27～113.27m：CM 堅硬であるが，上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆ着割れ目も多く，112.27～112.32mを除き，密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず，面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状～シルト状を呈する。	1 [20] (100)															
113							Ⅲg				113.27～114.41m：CH 堅硬，塊状。割れ目は少ないが，70～80°の高角度系が主体。ゆ着割れ目も同系統で密着度が高い。	20 (100) [72]	CH'													
114						Cg	Ⅳg	cg	γ		114.24m：80°のゆ着割れ目沿いに径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。 114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化，粘土化などの劣化は伴わない。 114.41～115.12m：CM 70～80°の割れ目が多く，114.89～115.12m間は上端幅5mm，下端幅30mmで砂状化～片状化する。	22 [40] (100)	CM'													

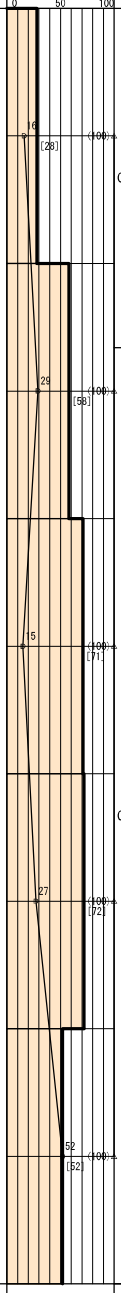
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	●115.00～115.12m：破砕部 粘土混じり礫状部（Hj） 上端80°，下端80°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。径10～30mm程度の岩片主体で岩片間に浅黄色粘土を伴う。岩片には定向配列が見られる場合がある。にぶい橙色を呈する。幅30mm。 115.12～116.80m：CM 堅硬で，密着度の高いゆ着割れ目が多いが，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	12 [34] (100)													
116						Bg	Ⅳg	bg	β		115.90～116.10m：径5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。																
											116.33m：70～80°で湾曲する割れ目と40°の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。両割れ目の一部に幅1mm，交差部で幅5mmの緑泥石砂状～シルト～粘土を挟む。70～80°の割れ目沿いの細粒部は局所的で，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	25 [47] (100)													
117									γ	2	116.80～117.32m：CM 一部に硬さ「C」を含むが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが，ゆ着割れ目は密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟在物は分布しない。		CM'													
						Dg	Vg	cg	δ		117.32～117.39m：CL 75°の割れ目沿いに幅20～25mmが風化で軟質化する。 117.39～118.47m：CH 堅硬。一部で割れ目が多いが，コア長10cm以上の棒状コア主体。白色筋状のゆ着割れ目も多いが，大半は密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟在物は分布しない。	10 [10] (100)													
118					にぶい橙	Bg	Ⅳg	bg	γ		117.65～118.40m：橙色のカリ長石が多く，全体ににぶい橙色を呈する。																
											118.20m・75°，118.46m・76°の割れ目が見られ，幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。																
					褐灰						118.47～119.00m：CM 上位に比べ割れ目が多くなるが，岩片は堅硬(硬さ「B」)で，挟在物は分布しない。長石は白濁化することが多い。	2 [36] (100)														
119						Dg	Vg	cg		3	119.00～119.11m：CL 風化と変質が進み，全体が軟質化する。 ●119.11～119.25m：破砕部 119.11～119.16m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端50°で直線的，下端60°で波打って連続。径5～10mmの角礫状岩片からなり，岩片間は幅1mm以下で白色，幅1～3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にぶい橙～暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16～119.18m：粘土状部（Hc-1） 傾斜60°で上端は波打ち，下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7～10mm。 119.18～119.25m：粘土混じり岩片状部（Hj） 上端60°で直線的に，下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行～これと斜交する割れ目で径2～5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。 119.25～120.10m：CL 風化で全体が軟質化するが，硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02～120.09mは割れ目沿いに砂状化が進む。	3 [0] (100)	CL'													
	-77.18	119.14				Eg	Vg	cg		4																	
	-77.30	119.30		アプライト	暗緑灰																						
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
						Dg	vg	cg	δ	3	120.09～120.10m：60°で幅10～15mmの緑泥石化で軟質化する。 120.10～125.90m：CH 堅硬，塊状。割れ目に挟在物は分布せず，面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。		CL'													
121											121.60m：ゆ着割れ目が開口割れ目化する。																
122				花崗斑岩	褐灰	Bg	IIIg	bg	β	2	122.36m：65°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。 122.61m：60°の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。		CH'														
123											123.35～125.06m：80～90°の割れ目が連続する。 123.63～123.67m：割れ目沿いに片状化するが，岩片は硬質で，砂や粘土化など劣化は伴わない。																
124																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	褐灰	Bg	Ⅲg	bg	β	2	125.00m以深はゆ着割れ目は殆んど分布しない。	19 (79) (100)	CH′			0 10 20 30 40 50											
126											125.90～128.05m：CM 堅硬であるが，ゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟在物は挟まず，ほぼ未風化で新鮮である。ほぼ全区間にわたり，60～90°のゆ着割れ目沿いに割れ目化し，一部はその周辺が片状化する。	13 (35) (100)																
127											127.15～127.58m：80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布する。全幅約50mmにわたり片状化するが，砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	13 (23) (100)	CM′														
128							Ⅳg				128.05～128.78m：CM 堅硬。128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°の割れ目が波打ちながら連続するが，一部を除き片状化は認められない。	20 (34) (100)															
129											128.78m：33°の割れ目に砂や径2～3mmの細片化岩片を幅1～4mmで挟む。 128.78～129.47m：CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが，大半は密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。																	
							Ⅴg		γ		129.47～129.84m：CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	11 (20) (100)	CL′														
					灰白 灰褐	Eg Cg	Ⅵg Ⅴg	dg bg		3 2	●129.84～129.91m：破砕部 129.84～129.85m：粘土状部（Hc-2） 傾斜70°で上端は直線的に，下端は波打って断続的。径1～3mmの石英粒，径2～3mmの岩片を10～20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2～5mm。一方，上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.85～129.91m：粘土質岩片状部（Hj） 上端70°で波打って，下端60～70°で少し湾曲して連続。径2～5mmに細岩片化し，岩片間は粘土～砂状化する。粘土量は多い。オリーブ灰色を帯びた灰白色を呈する。幅25～35mm。 129.91～130.57m：CL 岩片は堅硬であるが，高角度割れ目やゆ着割れ目が1～2cm間隔で分布し，片状化する。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。																	

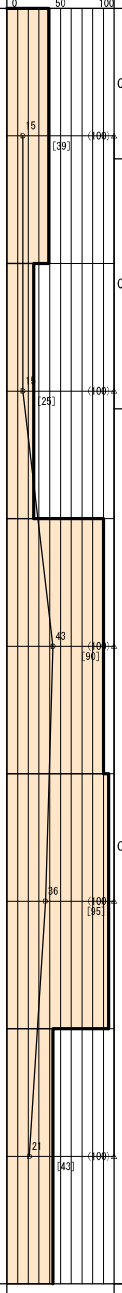
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Cg	Vg	cg	γ	2			CL'														
131							Ⅳg			3	130.57～131.51m：CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが，密着度が高く，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 130.75～130.90m：幅0.5～5mmの白色方解石が脈状に分布する。	1 (24) (100)	CM'													
					オリーブ灰																						
132					灰褐		Ⅲg				131.51～132.41m：CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色筋状のゆ着割れ目が多いが，周囲と同化し，ハンマーの強打でも分離しない。径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。全体が緑泥石化の変質を受けるが，軟質化～粘土化など劣化はない。	2 (100) [73]	CH'													
133						Bg	Ⅳg	bg	β	2	132.41～134.33m：CM 岩片は堅硬であるが，一部で密着度の低い潜在割れ目が多く，径30mm前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下端部を除き割れ目に挟在物は分布しない。 132.76～133.60m：ゆ着割れ目沿いに径30mm前後に分離し易いが，砂や粘土は挟まない。	2 (25) [25] (100)														
					明オリーブ灰						133.39～133.85m：径2～3mmの暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い，石基も淡緑色化し，明オリーブ灰色を呈する。区間全体が緑泥石化する。	5 [0] (100)	CM'													
134					灰褐						134.33～136.33m：CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが，周囲と同化し，ハンマーの強打でも分離しない。 134.35m：70～80°で幅1～2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上端に幅15mmの径5～10mmの岩片を挟む。 134.56～134.70m：緑泥石化により淡緑色化し，オリーブ灰色を呈する。 134.85m以深は所々に径10mm前後で橙色のカリ長石が晶出する。	1 [11] (100)														
					オリーブ灰																						
					灰褐																						
					明褐灰																						

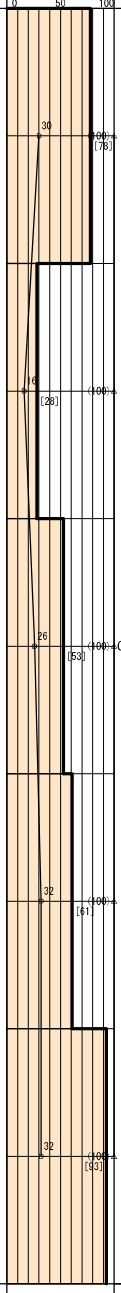
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰		Ⅳg						CM'														
136											135.76m：80°の割れ目は交差する割れ目の一部を止めている。80°の割れ目に細粒部は認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ，系統的な割れ目も存在しない。 136.09m・60°，136.33m・65°，136.56m・60°で前2者は幅1～2mmの緑泥石付着，後者は石英脈が密着して分布する。粘土化や砂状化は伴わない。																	
137					灰褐	Bg		bg	β	2	137.52～137.62m：ペグマタイトで，晶洞中に石英，橙色のカリ長石，緑泥石などが晶出する。														
138							Ⅲg				138.35m，138.50m：ゆ着割れ目沿いに開口割れ目化する。		CH'														
139					緑灰						139.02～139.21m：緑泥石により緑灰色化する。																
					灰褐						139.37m：70°で幅2～3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布する。径0.1mmの微細な黄鉄鉱も点在する。 139.66～139.96m：CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。																
							Ⅳg																				
											139.96～140.39m：CH																



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
141				花崗斑岩	緑灰	Bg	Ⅲg	bg	β	2	140.13m：65°の割れ目沿いの一部が細片化するが，軟質化など劣化はない。	13 [34] (100)	CH'			0 10 20 30 40 50											
							Ⅳg				140.39～140.61m：CM 70°の割れ目沿いに一部片状化する。砂や粘土は挟まない。																
					明褐灰		Ⅲg				140.61～141.97m：CH 堅硬・塊状。一部でゆ着割れ目が多いが，密着度が高く，周囲と同化し，ハンマーの強打でも分離・細片化しない。																
142											141.40～142.00m：径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	16 [48] (100)															
					灰褐		Ⅳg				141.97～147.08m：CM 割れ目はやや多いが，岩片は堅硬。白色筋状のゆ着割れ目が多いが，密着度が高い。一部で開口割れ目化する。																
											142.32～142.43m：50°程度の割れ目が交差し，径20～50mm程度に岩片化するが，砂や粘土は挟まない。	14 [14] (100)															
											142.70～142.76m：緑泥石により淡緑灰色を呈する。																
143					緑灰																						
					灰褐						143.48～144.50m：径3～5mmの橙色のカリ長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。	10 [30] (100)	CM'														
144											143.80～144.00m：割れ目間隔20～70mmで45°のゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。																
											144.08～145.44m：40～60°のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	8 [0] (100)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	β	2	145.37m：50°割れ目沿いに幅15mmが径2～10mmに細片化するが，岩片は硬質である。砂や粘土は挟まない。 145.45m付近，145.90m付近は，60～80°の割れ目が発達する。	11 [32] (100)																
146											145.88m：70°のゆ着割れ目沿いに幅約10mmで緑泥石により緑灰色を呈する。		CM'															
											146.56～147.08m：60～70°のゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	13 [13] (100)															
147											147.08～150.59m：CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものである。残留するゆ着割れ目は周囲と同化し，密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。各割れ目面に挟在物は殆んど分布せず，未風化で新鮮である。	25 [37] (100)															
148							Ⅲg				148.78m：65°の割れ目面に幅1mmの緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。	22 [62] (100)	CH'														
149					いろい褐						149.20～149.36m：割れ目がやや多いが，劣化は伴わない。	11 [32] (100)																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
151				花崗斑岩	にぶい褐	Bg	Ⅲg	bg	β	2	150.04～150.59m：50～80°で幅0.5mm以下の緑泥石細脈が多く分布する。大半は周囲と同化し，開口割れ目化していない。 150.41m：石英脈中に幅10mmの白色岩片を礫状に伴う。 150.59～151.57m：CM 20～40°と70～80°の割れ目が交差し，割れ目がやや多くなる。 151.21m：85°の割れ目の一部に幅2mmで径2mmの細片化部を挟む。 151.47～151.52m：緑泥石化と珪化が進み硬化する。 151.50～151.52m：石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。 151.57～152.23m：CH 堅硬・塊状。割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが，ゆ着割れ目の大半は密着度が高く，ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。 152.23～153.85m：CH 堅硬，塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目沿いに緑泥石化するが硬質である。 152.50～152.67m：上下端を幅10～20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同化し，硬質化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており，岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤，石英脈は完全にゆ着する。 153.20m付近に径10mmの大型の橙色のカリ長石の斑晶が点在する。 153.25～153.60m：60～80°の高角度な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが，密着度が高く，開口化しない。 153.85～154.60m：CH 堅硬，塊状。 154.42～154.60m：緑泥石化が進むが硬質である。上端は30～70°の割れ目が交差し片状化するが，微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土，砂など挟まない。 154.60～156.18m：CH 堅硬，塊状で割れ目は少ない。155.25m以深で60～90°の高角度の白色筋状のゆ着割れ目が多いが，密着度は高く，ハンマーの強打でも分離しない。		CH′ CM′ CH′																
152							Ⅳg																				
153					緑灰		Ⅲg																				
154					にぶい褐		Ⅱg																				
					緑灰		Ⅲg																				
					にぶい褐		Ⅱg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
156				花崗斑岩	にぶい褐	Bg	Ⅱg	bg	β	2	155.25m：70～80°の割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が止まっている。70～80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が見られれ，系統的な割れ目も存在しない。 155.77～155.80m：一部で緑泥石化し径30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。 156.00～156.14m：白色筋状のゆ着割れ目の一部が剥離しかかっているが，よく密着する。 156.18～159.24m：CH 堅硬，塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも含むが，長さ10～20cm（Ⅲ）が主体。割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するが，よく密着する。 156.50～156.90m：18～80°の割れ目が交差し，一部で片状化するが，挟在物は分布しない。 157.00m以深は20～40°の割れ目が主体。 157.35～157.89m：わずかに石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83～157.89m：30°程度で径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱く脈状に点在する。 158.20～158.30m：径10mm前後の大型なカリ長石が点在する。 158.54mと158.62mに70～75°，幅1～2mmで石英脈が分布する。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も緑泥石化が進み，暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず，堅硬である。 159.24～160.40m：CH 堅硬，塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが，堅硬で密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み，暗緑灰色を呈するが，緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留する。全体的に色調が斑模様を呈する。 159.45m：60°の割れ目が交差する65°のゆ着割れ目を横断する。60°の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められれ，系統的な割れ目も存在しない。																		
157							Ⅲg																					
158																												
159					暗緑灰		Ⅱg																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	暗緑灰	Bg	Ⅱg	bg	β	2			CH'														
					にぶい橙		Ⅳg				160.40～161.45m：CM 堅硬，塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。	22 (100) [45]	CM'													
161					緑灰						161.10～161.69m：径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10～161.24mは石基も緑泥石化が進み，緑灰色を呈する。																
					灰褐		Ⅲg				161.45～166.65m：CM 堅硬，塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1～2mmの白色筋状の主に高角度のゆ着割れ目が発達するが，密着度は高く，ハンマーの強打でも分離しない。ゆ着割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のカリ長石が濃集する部分も含み，にぶい橙色などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目沿いでは殆んど分布せず，径2～5mmの斑点状に晶出する。 161.70～161.90m：60°の割れ目交差部の一部で片状化するが，岩片は堅硬で，粘土や砂を挟まない。 162.12～162.18m：径10mm前後の大型な橙色のカリ長石が点在する。	13 (100) [26]														
162					にぶい橙						162.46～162.57m：80～90°のゆ着割れ目が5～20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く，ハンマーの強打で分離する。	35 (100) [68]														
163													CH'														
					灰褐		Ⅱg				163.50～163.60m：高角度割れ目が交差し，一部で片状化するが，岩片は堅硬で，砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出する。	37 (100) [73]														
164											164.00～164.30m：径10mmの大型の橙色のカリ長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。															
											164.50m：径50mmの石英の晶洞で，長石などの2次鉱物を伴う。	35 (100) [100]														
					にぶい橙																						
					白灰 にぶい橙						164.94m：70°の密着割れ目で，上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下端境界に劣化はない。 164.95～165.89m：橙色のカリ長石の含有量が上下位に比べ多くなり，にぶい橙色などの橙色系を呈する。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
166				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	Ⅱg	bg	β	2	165.32m：70°の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のカリ長石を横断する。また，交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。 165.80～166.10m：径10～20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	46 (100) [98]	CH′													
					灰褐						166.44～166.47m：径10mmの斑状～長さ20～30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。	63 (100) [77]														
					褐灰		Ⅲg				166.65～167.21m：CH 一部で高角度割れ目がやや多いが，岩片は堅硬で，粘土や砂などの挟在物は分布しない。															
167					暗緑灰						167.00m以深は緑泥石化が進み，暗緑灰色を呈する。															
					灰褐		Ⅳg				167.21～168.22m：CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが，岩片は堅硬で，挟在物は分布しない。	21 (100) [36]	CM′													
168											168.22～169.66m：CH 堅硬，塊状で，コア長20cm以上の長柱状コアも含むが，10～20cmの柱状コアが主体。白色筋状のゆ着割れ目も含むが，密着度は高く，ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し，径2～3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目に粘土，砂などの挟在物は分布しないが，一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。	25 (100) [69]														
169							Ⅱg						CH′														
					暗緑灰						169.19～169.41m：緑泥石化が進み，暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。															
					灰褐						169.66～172.69m：CH 堅硬，塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが，密着度が高く，分離しない。 169.67～170.22m：径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。	18 (100) [43]														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅱg	bg	β	2	170.20～170.65m：60～70°のゆ着割れ目が数本分布するが，密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。	77 (100) [91]					0 10 20 30 40 50											
171					褐灰						171.00～171.08m：径10mmの大型の橙色のカリ長石が点在する。																	
					灰褐						171.29m：35°と87°の割れ目が交差するが，交差部周辺は片状化しない。	49 (100) [87]																
172											171.85m：34°と74°の割れ目が交差するが，交差部周辺は片状化しない。																	
											172.32～172.53m：径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5～1mmの石英細脈を伴って，斑点状に晶出，点在する。	37 (100) [62]	CH'														
173					にぶい褐		Ⅲg				172.69～174.13m：CH 堅硬，塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが，10～20cmの柱状コアが主体。一部で緑泥石化し，割れ目やゆ着割れ目に沿って細脈状～径1～3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。	28 (100) [98]																
											173.66～173.73m：密着度の低い潜在割れ目が10～20mm間隔で分布し，ハンマーの強打で分離・細片化するが，粘土や砂など挟在物は分布しない。																	
174					褐灰		Ⅱg				173.93m：43°の割れ目は径5mmの橙色のカリ長石を横断する。また，43°の割れ目と交差する2条の高角度のゆ着割れ目が見られる。割れ目に細粒部は認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ，系統的な割れ目も存在しない。 174.13～175.55m：CH 堅硬，塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが，コア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが，密着度は高く，ハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	62 (100) [100]																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
176				花崗斑岩	褐灰	Bg	Ⅱg	bg	β	2	175.15～175.22m：70°程度の割れ目が交差し片状化するが，岩片は硬質で割れ目面に挟在物は分布しない。 175.45～175.71mは片状化するが，コアチューブ引上げ時の擾乱による可能性が高い。岩片は堅硬で挟在物は分布しない。面の一部は赤褐色化し，断片的に鏡肌も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目に細粒部は認められず，割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 175.55～176.50m：CH 堅硬。上下位に比べ割れ目がやや多いが，コア長10～20cm（Ⅲ）が主体。ゆ着割れ目も含むが，大半は密着度が高く，ハンマーの打撃で分離しない。	28 [43] (100)															
177							Ⅲg					14 [37] (100)															
					灰白	Cg	Ⅳg		γ		176.50～176.78m：CM 割れ目が交差し短柱状～一部岩片状を呈する。 176.59～176.62m：30°の割れ目沿いに風化（γ）し，軟質化（D）する。砂状～粘土状部は挟まない。 176.78～179.15m：CH 堅硬，塊状でコア長20cm以上の棒状コアが主体。一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み，径2～5mmの暗緑灰色の斑点状～幅0.5mmの細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し，開口化しない。		CH'														
178					褐灰	Bg	Ⅱg		β		177.65m：35°で幅2～3mmの石英脈が分布する。周囲と同化する。 177.83～178.27m：径5～10mmの大型な橙色のカリ長石が晶出し，点在する。 178.31～178.39m：上端75°，下端70°の割れ目に囲まれ幅25mmで径5～10mmに細片化する。幅25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面に緑泥石がフィルム状に付着する。 178.45m以深はゆ着割れ目が多いが，密着度が高く，ハンマーの強打でも分離しない。	49 [79] (100)															
179												33 [71] (100)															
							Ⅳg				179.15～180.00m：CM 179.37～179.68m間の一部は15～57°の割れ目が交差し片状化するが，岩片は堅硬で，面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する。ゆ着割れ目の多くは開口割れ目化する。	15 [43] (100)	CM'													
	120.22	180.00																									

[redacted]

孔番：H27-B-3　　深度　0.00m ～18.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-3　　深度　18.00m ～ 36.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-3　　深度　36.00m ～ 54.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-3　　深度　54.00m ～ 72.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H27-B-3　　深度　72.00m ～ 90.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H27-B-3　　深度　90.00m ～ 108.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H27-B-3　　深度　108.00m ～ 126.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-3　　深度　126.00m ～ 144.00m

[redacted]

[redacted]

孔番： H27-B-3　　深度　144.00m ～ 162.00m

[redacted]

[redacted]

孔番：H27-B-3　　深度　162.00m ～ 180.00m

[redacted]

余白

H27－B－4

余白